

第 2 2 回川崎病全国調査成績

特定非営利活動法人
日本川崎病研究センター

川崎病全国調査担当グループ

[連絡先]

〒 329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
自治医科大学公衆衛生学教室気付
川崎病全国疫学調査事務局
連絡担当 屋代真弓・中村好一

TEL 0285-44-6192
FAX 0285-44-7217

2013 年 9 月

第 2 2 回川崎病全国調査成績

はじめに

1970 年以来 2 年に 1 回の間隔で 21 回にわたって、川崎病全国調査が行なわれてきた¹⁻³⁷⁾。今回 2011 年～ 2012 年の 2 年間の患者を対象に実施した第 22 回川崎病全国調査の成績がまとまった。2 年間の調査成績より、報告患者数、初診年月分布、性・年齢分布、地域分布、診断、家族歴、再発例、死亡例、心障害例(初診時の異常、急性期の異常、後遺症)、初診時病日、不全型主要症状の数、免疫グロブリン(IG)治療(不応例の有無、ステロイド併用の有無と内容、初回免疫グロブリン(IG)投与施設)、初回免疫グロブリン(IG)投与後の追加治療(追加免疫グロブリン(IG)投与、ステロイド投与、infliximab投与、免疫抑制剤投与、血漿交換)、初診時の検査値(白血球数、血小板数、アルブミン値、CRP 値)などの疫学像並びに臨床像を明らかにしたので、これまでに得られた過去の調査成績と比較しながらその概要を報告する。

I. 方法

第 22 回川崎病全国調査は、2011 年 1 月 1 日より 2012 年 12 月 31 日の 2 年間に小児科を標榜する 100 床以上の病院、および小児科のみを標榜する 100 床未満の専門病院を受診した川崎病初診患者を対象に郵送(一部、インターネットサーベイランス(<http://www.kawasaki-disease.net/kawasakidata/>)参加の施設には電子メールでも依頼)により実施した(添付の調査票様式参照)。

施設の選定は、前回使用した医療機関のリストに、その後現在までの変更を更新したものをを用いた。対象候補施設数は 2,006 か所であった。

本調査は、自治医科大学疫学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(2012 年 8 月 22 日、疫 12-18)。

II. 調査結果

1. 回収率

依頼状、調査票等を送付した 2,006 施設のうち、廃院等の連絡があった 23 施設を除く 1,983 施設を調査対象とした。回答は 1,420 施設から得られ、回収率は 71.6 %であった。そのうち、ホームページより調査票をダウンロードして Excel ファイルで回答した施設が 91 か所、インターネットサーベイランス参加施設で登録済みの患者ファイルを使用して回答した施設が 36 か所であった。なお、サーベイランス参加施設でも調査票郵送により協力を得たところもある。

回答があった 1,420 施設のうち、患者報告があった施設は 926 施設(回収施設の 65.2 %)であった。回収率は、都道府県によって 54.5 %～ 100 %の開きがみられ、前回と大きな違いはなかった。

2. 年次推移

今回の調査で報告された 2 年間の患者数は、2011 年 12,774 人(男 7,406 人、女 5,368 人)、2012 年 13,917 人(男 8,036 人、女 5,881 人)のあわせて 26,691 人であった(表 1)。今回の集計では他施設受診の重複患者 649 人は除外した。

0-4 歳人口 10 万対罹患率は、2011 年 243.1 (男 275.2、女 209.4)、2012 年 264.8 (男 298.6、女 229.4)であった。2012 年の罹患率は、史上第 1 位となった。2 年間平均の罹患率は 0-4 歳人口 10 万対 254.0 (男 286.9、女 219.4)であった。

患者数の性比(男/女)は 1.37、罹患率の性比は 1.31 でいずれも男の方が高く、前回と比較して今回は性差が開いていた。過去 21 回の全国調査で報告された患者を含めると 2012 年 12 月までの患者数は、合計 299,440 人(男 173,307 人、女 126,133 人)になった。

川崎病患者数の年次推移は、表 1、図 1 に示すとおりである。1979 年、1982 年、1986 年の 3 回にわたる全国規模の流行がみられた。その後、1990 年代半ばから年次とともに増加傾向が続く、2005 年の患者数は 10,000 人を超え、2006 年には第 1 回目の流行年(1979 年)の約 1.5 倍と

なった。さらに 2009 年にはやや減少がみられたが 2007 年、2008 年は 11,000 人、2010 年には 12,000 人を超え、第 3 回目の流行年(1986)年に匹敵する患者数となった。さらに 2012 年には 13,000 人を超えており、近年の増加は急勾配で加速している。

罹患率の年次推移をみると、表 1、図 2 に示すように、2011 年は 0-4 歳人口 10 万対 243.1、2012 年は 264.8 であり、毎年史上最高値を更新している。

3. 月別推移

最近 12 年間の月別、性別患者数を図 3 に示す。患者数は各年とも同じような季節変動を示し、すべての月で男が多くなっている。最近数年間の季節変動を見ると、秋(9-10 月)は少なく、春から夏にかけての増加が観察された。2011 年、2012 年 1 月のピークは史上最高値を示し、秋以外の他の月でも患者数は多かった。

4. 性・年齢分布

患者数の性・年齢分布をみると、3 歳未満の者の割合は全体の 66.2 % (男 67.1 %、女 64.9 %)であった(表 2)。2011 年、2012 年平均の性・年齢別罹患率では、男女とも月齢 9-11 か月にピーク(人口 10 万対 男 485.3、女 330.2)をもつ、一峰性の山(女は月齢 6-8 か月も高い)がみられた。前回実施した 2009 年、2010 年の成績では男は月齢 6-8 か月、女は月齢 9-11 か月にピークがみられた。罹患率の性比は、月齢 0-2 か月の者で最も大きく 1.49 であった(図 4)。

5. 地域分布

2 年間の患者住所都道府県別報告数が最も多かったのは東京で 2,707 人、次いで神奈川 2,025 人、大阪 1,866 人、愛知 1,811 人の順であった。年次別都道府県別罹患率を 0-4 歳人口 10 万対で計算した(2009-2010 年の都道府県別罹患率は 2010 年の住民基本台帳人口、2011-2012 年の罹患率は 2012 年の住民基本台帳人口を用いて計算した。全国の罹患率は各年次の推計人口を用いて計算した(ただし 2012 年は 2011 年の推計人口を使用))。2011 年、2012 年両年とも罹患率が高いところは、群馬、熊本、和歌山、大分などであった。2011 年の罹患率が高いところは、福井、山形などで、2012 年の罹患率が高いところは、鹿児島、新潟、富山、栃木などであった。全国各地で局地的に患者数の増加があったと考えられる。2 年間とも低いところは、岩手、山梨、佐賀などであった(表 3)。

2009 年～ 2012 年の各年について、都道府県別罹患率の地図を作成した(図 5)。都道府県によって回収率が異なるので、未回収施設も同じ数の患者がいると仮定して回収率を 100 %に補正して、0-4 歳人口 10 万対罹患率の地域差を示した。2009 年に罹患率の高い地域は、徳島、長野、京都、熊本で、特定の地域に限っての上昇はみられなかった。2010 年には、隣接する地方に高率地域が拡大した。2011 年にはさらにまわりの地域に拡がり、2012 年には東北の一部を除く全国に罹患率が高い地域が広がっていった。

6. 診断

診断基準への一致度をみると、定型例 78.4 % (男 78.4 %、女 78.3 %)、不定型例 1.8 % (男 2.0 %、女 1.6 %)、不全型 19.8 % (男 19.6 %、女 20.0 %)であった。前回より定型例、不定型例が減少し、不全型は増加した。年齢別にみると、2 歳未満の若年齢および年長児で不全型の割合が比較的高かった(表 4)。

なお、定型例(調査票では「確実 A」とした)は「川崎病診断の手引き 改訂 5 版」(2002 年 2 月に診断の手引きが改訂され、第 17 回全国調査から改訂 5 版を使用)に示された 6 つの主要症状のうち 5 つ以上の症状を伴う者、不定型例(「確実 B」)は 4 つの症状しか認められなくても、経過中に断層心エコー法もしくは心血管造影法で、冠動脈瘤(いわゆる拡大を含む)が確認され、他の疾患が除外された者をいう。また不全型(「不全型」)は上記のいずれにも合致しないが、主治医が川崎病の疑いありと診断して全国調査に報告した者をいう。

不全型の主要症状の数は 4 つが最も多く 67.8 %、次いで 3 つ 25.0 %、2 つ 5.9 %、1 つ 0.8 %、不明 0.5 %であった。性別にみてもほぼ同様の割合であった。年齢別には、1 歳未満と 6 歳以上は 3 つ以上の症状を持つ患者の割合が高い傾向があった(表 5)。

7. 家族歴

同胞例ありの割合は報告患者中 408 人(1.5 %) (男 227 人(1.5 %)、女 181 人(1.6 %)) であった。

両親のいずれかに川崎病の既往歴ありは 237 人(男 136 人、女 101 人) 報告され、報告患者中 0.89 % (男 0.88 %、女 0.90 %) であった。既往歴を有する両親の内訳は父 114 人、母 121 人、不明 2 人であった。

8. 再発例

再発例は報告患者中 946 人(3.5 %) (男 570 人(3.7 %)、女 376 人(3.3 %)) であった。

性・年齢別にみると男は 6 歳まで、女は 5 歳までは年齢とともに再発患者の割合が増加していた。

9. 死亡例

死亡例は 2 年間で 4 人 (男 4 人) 報告され、致命率は 0.01 % であった。死亡例の初診時年齢は 0-5 か月の若年児が 2 人、1 歳が 1 人、5 歳の年長児が 1 人であった。死亡例の診断は定型例が 3 人、不全型が 1 人であった。(表 6)

10. 心障害例

心障害については、今回の調査では「初診時の異常」を追加し、発病後 1 か月以内に出現した「急性期の異常」と 1 か月以降も残存する「後遺症」の 3 時点に分けて調査を実施した。

報告患者中、初診時の異常は 1,241 人(4.6 %) (男 845 人(5.5 %)、女 396 人(3.5 %)) であった。急性期の異常は 2,487 人(9.3 %) (男 1,680 人(10.9 %)、女 807 人(7.2 %))、後遺症は 754 人(2.8 %) (男 531 人(3.4 %)、女 223 人(2.0 %)) であった。急性期、後遺症の割合は前回よりも減少した。後遺症は急性期の異常に比べて男女とも約 3 分の 1 以下であった。すべて男が高率を示していた。性・年齢別にみると若年児と高年児が高く、ゆるやかな U 字型のカーブを示していた(図 6)。急性期の異常と後遺症ありのどちらの割合も、第 15 回調査(1997-1998 年)から第 22 回調査(2011-2012 年)の間に半分以下に減少していた(図 7)。

報告患者に占める「初診時の異常」の種類別割合は冠動脈の拡大 3.59 %、弁膜病変 0.91 %、瘤 0.25 %、巨大瘤 0.04 %、狭窄 0.01 %、心筋梗塞 0 % であった。性別にみると、すべて男で高かった。特に瘤は、男が女の約 2 倍の出現率であった。出現率を 2 歳未満と、2 歳以上に分けてみると、拡大の出現率は、2 歳以上で高率にみられた。

報告患者に占める「急性期の異常」の種類別割合は冠動脈の拡大 6.99 %、弁膜病変 1.66 %、瘤 0.91 %、巨大瘤 0.18 %、狭窄 0.02 %、心筋梗塞 0.004 % であった。性別にみると弁膜病変以外はすべて男で高かった。出現率を 2 歳未満と、2 歳以上に分けてみると、巨大瘤、拡大、弁膜病変の出現率は 2 歳以上で高率にみられた。

報告患者に占める「後遺症」の種類別割合は冠動脈の拡大 1.75 %、瘤 0.72 %、弁膜病変 0.37 %、巨大瘤 0.18 %、狭窄 0.02 %、心筋梗塞 0.004 % であった。性別にみると、弁膜病変以外すべて男で高かった。特に巨大瘤は、男が女の 3 倍以上の出現率であった。出現率を 2 歳未満と、2 歳以上に分けてみると、瘤、拡大以外の出現率は、2 歳以上で高率にみられた。特に巨大瘤は、2 歳以上が 2 歳未満の約 2 倍の出現率であった。

心障害の種類別の観察では巨大瘤は、初診時に比べ、急性期、後遺症で 4 倍以上になっていた。

瘤は初診時に比べて、急性期に 3.6 倍となり、その後、後遺症で減少した。冠動脈の拡大は、初診時に比べ、急性期に約 2 倍となり、その後、後遺症では初診時の半分以下に減少した。狭窄、心筋梗塞はあまり変化がみられなかった。弁膜病変は、初診時に比べ後遺症では約 4 割に減少していた(表 7)。

11. 初診時病日および初回免疫グロブリン(IG)治療開始時病日

患者の初診時病日は第 4 病日が最も多く 24.7 % であり、第 4 病日までに受診した者は 65.9 % であった。2 歳未満と 2 歳以上に分けてみると、第 4 病日までに受診した者は 2 歳未満では 70.2 % を占めていたが、2 歳以上では 61.7 % であり、2 歳以上の年長児の受診が遅れる傾向がみられた。

初回免疫グロブリン(IG)の投与開始時病日は第 5 病日が最も多く 36.6 % であった。年齢別に

みると、第5病日までに投与を開始された者の割合は2歳未満では73.2%、2歳以上では64.4%であり、2歳未満で早期に投与を開始する傾向がみられた(表8)。

12. 免疫グロブリン(IG)治療とステロイド併用

免疫グロブリン(IG)治療を受けた者は91.2%(男91.4%、女91.0%)であり、その割合は高年齢になるほど減っていた。性差はみられなかった(表9)。

免疫グロブリン(IG)使用者のうち17.0%が不応例であった。性別では男、年齢別では、高年齢に不応例が多かった(表10)。

今回の調査では初回免疫グロブリン(IG)投与時にステロイド併用の有無を調べた(表11)。ステロイド併用ありの割合は、5.3%であった。性別では男でやや多かった。年齢別にみると、年齢が高くなるにつれ併用ありの割合が高くなっていた。診断別にみると、不全型でやや少なかった。ステロイド併用ありの内容はパルスが30.0%、パルス以外が71.3%であった(1人の患者に両方使用した例があるため横の合計は総数を超える)。

性別ではパルスは男に多く、パルス以外は女に多かった。年齢別にみるとパルスは5-9歳が少なく、診断別では差は認められなかった。

また、初回免疫グロブリン(IG)は報告施設で投与された者が98.1%を占めていた。性別、年齢別にみても同様の割合であった(表12)。

初回免疫グロブリン(IG)の1日あたりの投与量は、1900-2099mg/kgの者が最も多く89.8%、次いで900-1099mg/kgが8.4%であった。投与期間は1日が最も多く94.4%、次いで2日5.3%であった。初回免疫グロブリン(IG)の1日投与量と使用日数から計算した使用総量は、1900-2099mg/kgが最も多く93.7%、次いで900-1099mg/kgが3.8%、2100mg/kg+が1.6%、1700-1899mg/kgが0.7%であった。前回に比べて使用総量2000mg/kgの大量投与がさらに増加し、治療を受けた者の9割以上を占めていた(表13、図8)。

13. 初回免疫グロブリン(IG)投与後の追加治療法

追加治療(追加免疫グロブリン(IG)投与)の割合は、初回使用例のうち18.8%(再燃時の免疫グロブリン(IG)投与を含む)であった。性別では男が多く、2歳未満と2歳以上に分けてみると2歳以上が多かった。診断別では定型例が多かった。

追加治療(ステロイド投与)の割合は免疫グロブリン(IG)使用例のうち5.9%であった。性別では男が多く、2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳以上が多かった。診断別では定型例が多かった。

追加治療(infliximab投与)の割合は初回免疫グロブリン(IG)使用例のうち0.8%であった。性別では男が多く、2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳以上が多かった。診断別では定型例が多かった。

追加治療(免疫抑制剤投与)の割合は初回免疫グロブリン(IG)使用例のうち0.7%であった。性別では男が多く、2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳以上がやや多かった。診断別では不定型例がやや多かった。

追加治療(血漿交換)の割合は初回免疫グロブリン(IG)使用例のうち0.4%であった。性別では男が多く、2歳未満と2歳以上では、ほぼ同じ割合であった。診断別では不定型例が多かった(表14)。

同様に、初回免疫グロブリン(IG)不応例について追加治療の割合をみた。

不応例の追加治療(追加免疫グロブリン(IG)投与)の割合は、91.5%であった。性別では男が多かった。2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳未満でやや多かった。診断別では定型例がやや多かった。

初回免疫グロブリン(IG)不応例の追加治療(ステロイド投与)の割合は30.0%であった。性別ではやや男が多く、2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳以上がやや多かった。診断別では定型例が多かった。

初回免疫グロブリン(IG)不応例の追加治療(infliximab投与)の割合は4.3%であった。性別では男が多く、2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳以上が多かった。診断別では定型例が多かった。

初回免疫グロブリン(IG)不応例の追加治療(免疫抑制剤投与)の割合は3.7%であった。性別では男がやや多く、2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳未満がやや多かった。診断別では不

定型例が多かった。

初回免疫グロブリン(IG)不応例の追加治療(血漿交換)の割合は 2.2 %であった。性別では男が多く、2歳未満と2歳以上に分けてみると、2歳未満がやや多かった。診断別では不定型例が多かった(表15)。

14. 検査所見

今回の調査では初診時の白血球数、血小板数、アルブミン値、CRP値を調べた。

年齢別にみた白血球数の分布では、10000 / μ L未満の割合は、年齢が高くなるにつれて増加する傾向がみられた。明らかな性差はみられなかった(表16)。

年齢別にみた血小板数の分布では、25 万/ μ L未満の割合は、年齢が高くなるにつれて増加する傾向がみられ、40 万/ μ L以上の割合は、年齢が高くなるにつれて減少していた。明らかな性差はみられなかった(表17)。

年齢別にみたアルブミン値の分布では、はっきりした年齢差、性差はみられなかった(表18)。

年齢別にみたCRP値の分布では、1-5mg/dL未満と、5-10mg/dL未満は年齢とともに減少、15 mg/dL以上の高値は年齢とともに増加していた。性差はみられなかった(表19)。

15. 転院

今回の調査では他院に転院させたかどうかを調べた(表20)。転院ありは全体の4.5%で男がやや多く、年齢別には、若年児と高年児が多かった。心障害の有無別では、心障害ありと不明が多かった。診断別では不全型がやや少なかった。

III. 要約

1. 2年間の報告患者数は26,691人(2011年12,774人(男7,406人、女5,368人)、2012年13,917人(男8,036人、女5,881人)、性比1.37)であり、2012年12月末までの患者数は、合計299,440人(男173,307人、女126,133人)になった。
2. 0-4歳人口10万対罹患率は、2011年243.1(男275.2、女209.4)、2012年264.8(男298.6、女229.4)であった。2012年の罹患率は、史上第1位となった。
3. 最近12年間の月別患者数は各年とも同じような季節変動を示し、すべての月で男が多くなっている。最近数年間の季節変動を見ると、秋(9-10月)は少なく、春から夏にかけての増加が観察された。2011年、2012年は1月のピークは史上最高値を示し、秋以外の他の月でも患者数は多かった。
4. 2011年、2012年平均の性・年齢別罹患率では、男女とも月齢9-11か月にピーク(人口10万対男485.3、女330.2)をもつ、一峰性の山(女は月齢6-8か月も高い)がみられた。罹患率の性比は、月齢0-2か月の者で最も大きく1.49であった。
5. 最近4年間の都道府県別罹患率の地域差をみると、2011年、2012年両年とも罹患率が高いところは、群馬、熊本、和歌山、大分などであった。2011年の罹患率が高いところは、福井、山形などで、2012年の罹患率が高いところは、鹿児島、新潟、富山、栃木などであった。全国各地で局地的に患者数の増加があったと考えられる。2009年に罹患率の高い地域は、徳島、長野、京都、熊本で、特定の地域に限っての上昇はみられなかった。2010年には、隣接する地方に高率地域が拡大した。2011年にはさらにまわりの地域に拡がり、2012年には東北の一部を除く全国に罹患率が高い地域が広がっていった。
6. 診断基準への一致度をみると、定型例78.4%(男78.4%、女78.3%)、不定型例1.8%(男2.0%、女1.6%)、不全型19.8%(男19.6%、女20.0%)であった。
7. 不全型の主要症状の数は4つが最も多く67.8%、次いで3つ25.0%、2つ5.9%、1つ0.8%、不明0.5%であった。
8. 同胞例ありの割合は報告患者中1.5%(男1.5%、女1.6%)であった。両親のいずれかに川崎病の既往歴ありは237人(男136人、女101人)報告され、報告患者中0.89%(男0.88%、女0.90%)であった。既往歴を有する両親の内訳は父114人、母121人、不明2人であった。死亡例は2年間で4人(男4人)報告され、致命率は0.01%であった。初診時年齢は0-5か月の若年児が2人、1歳が1人、5歳の年長児が1人であった。診断は定型例

- が3人、不全型が1人であった。
9. 心障害の初診時異常の割合は4.6%であった。種類別の割合は冠動脈の拡大3.59%、弁膜病変0.91%、瘤0.25%、巨大瘤0.04%、狭窄0.01%、心筋梗塞0%であった。すべて男で高く、冠動脈の拡大は2歳以上で高率にみられた。
 10. 心障害の急性期異常の割合は9.3%であった。種類別の割合は冠動脈の拡大6.99%、弁膜病変1.66%、瘤0.91%、巨大瘤0.18%、狭窄0.02%、心筋梗塞0.004%であった。弁膜病変以外すべて男で高かった。巨大瘤、冠動脈の拡大、弁膜病変は2歳以上で高率にみられた。
 11. 心後遺症の割合は2.8%であった。種類別の割合は、冠動脈の拡大1.75%、瘤0.72%、弁膜病変0.37%、巨大瘤0.18%、狭窄0.02%、心筋梗塞0.004%であった。弁膜病変以外すべて男で高かった。瘤、拡大以外は2歳以上で高率にみられた。
 12. 患者の初診時病日は第4病日が最も多く24.7%であり、第4病日までに受診した者は65.9%であった。2歳以上の年長児の受診が遅れる傾向がみられた。
 13. 初回免疫グロブリン(IG)の投与開始時病日は第5病日が最も多く36.6%であった。2歳未満で早期に投与を開始する傾向がみられた。
 14. 免疫グロブリン(IG)治療を受けた者は91.2%(男91.4%、女91.0%)であり、免疫グロブリン(IG)使用者のうち17.0%が不応例であった。
 15. 初回免疫グロブリン(IG)投与時にステロイドの併用ありの割合は、5.3%であった。男が多く、年齢が高くなるにつれ併用ありの割合が高く、不全型でやや少なかった。ステロイド併用ありのうち、内容はパルスが30.0%、パルス以外が71.3%であった。
 16. 初回免疫グロブリン(IG)1日あたりの投与量は、1900-2099mg/kgの者が最も多く89.8%であった。投与期間は1日が最も多く94.4%であり、前回に比べて、使用総量2000mg/kgの大量投与がさらに増加し、治療を受けた者の9割以上を占めていた。
 17. 追加治療では免疫グロブリン(IG)追加投与の割合は、初回使用例のうち18.8%(再燃時のIG投与を含む)であった。ステロイド投与5.9%、infliximab投与0.8%、免疫抑制剤投与0.7%、血漿交換0.4%であった。初回IG不応例の追加治療の割合は、追加IG投与91.5%、ステロイド投与30.0%、infliximab投与4.3%、免疫抑制剤投与3.7%、血漿交換2.2%であった。
 18. 白血球数の分布では、10000/ μ L未満の割合は、年齢が高くなるにつれて増加する傾向がみられた。明らかな性差はみられなかった。血小板数の分布では、25万/ μ L未満の割合は、年齢が高くなるにつれて増加する傾向がみられ、40万/ μ L以上の割合は、年齢が高くなるにつれて減少していた。明らかな性差はみられなかった。アルブミン値の分布では、はっきりした年齢差、性差はみられなかった。CRP値の分布では、1-5mg/dL未満と、5-10mg/dL未満は年齢とともに減少、15mg/dL以上の高値は年齢とともに増加していた。性差はみられなかった。
 19. 他院に転院ありは全体の4.5%で男がやや多く、年齢別には、若年と高年児が多かった。診断別では不全型がやや少なかった。

謝辞

第1回全国調査以来終始変わらぬご協力を賜った関係医療機関の小児科医各位に対し、本研究グループとして深く感謝します。

今回の調査にご協力いただいた医療機関名を巻末に付記します。

本報告書は自治医科大学公衆衛生学ホームページ <http://www.jichi.ac.jp/dph/kawasaki.html> でも読むことができます。

文献

- 1) 小児MCLS研究班 (班長: 神前章雄). 小児MCLS全国調査成績, 昭和45年度予備調査成績と昭和46年度個人調査成績の概要. 1971.
- 2) 重松逸造, 柳川洋. いわゆる川崎病について. 日本公衛誌 1975; 22(6): 306-312.
- 3) 柳川洋. 川崎病の実態. 公衆衛生情報 1975; 5(12): 22-29.
- 4) 柳川洋. 川崎病の疫学. 日本臨床 1976; 34(2): 275-283.
- 5) 川崎病研究班. 最近(1977-78年)におけるMCLS(川崎病)の実態, 一第5回全国調査結果の速報一. 小児科 1979; 20(7): 755-757.
- 6) 川崎病研究班. MCLS(川崎病の多発)一第6回全国調査成績の速報一. 小児科 1981; 22(1): 53-58.
- 7) 川崎病研究班. 最近(1981年1月-82年6月)におけるMCLS(川崎病)の実態, 一第7回全国調査成績の速報一. 小児科 1983; 24(1): 53-58.
- 8) 厚生省川崎病研究班. 第8回川崎病全国調査成績. 小児科 1985; 26(9): 1049-1053.
- 9) 柳川洋. 川崎病の全国調査成績. 川崎病疫学データのすべて(日本心臓財団川崎病原因究明委員会編). 東京: ソフトサイエンス社, 1986; 37-51.
- 10) 厚生省川崎病研究班. 第9回川崎病全国調査成績. 小児科 1987; 28(9): 1059-1066.
- 11) 柳川洋, 屋代真弓, 藤田委由. 川崎病の全国調査成績. 川崎病(川崎富作, 重松逸造, 濱島義博, 柳川洋, 加藤裕久編). 東京: 南江堂, 1988; 18-31.
- 12) 厚生省川崎病研究班. 第10回川崎病全国調査成績. 小児科 1990; 31(5): 569-576.
- 13) 厚生省川崎病研究班. 第11回川崎病全国調査成績. 小児科 1992; 33(3): 309-316.
- 14) 厚生省川崎病研究班. 第12回川崎病全国調査成績. 小児科 1994; 35(1): 61-73.
- 15) 厚生省川崎病研究班. 第13回川崎病全国調査成績. 小児科 1996; 37(4): 363-383.
- 16) 厚生省川崎病研究班. 第14回川崎病全国調査成績. 小児科診療 1998; 61(3): 406-420.
- 17) 厚生省川崎病研究班. 第15回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2000; 63(1): 121-132.
- 18) 厚生省川崎病研究班. 第16回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2002; 65(2): 332-342.
- 19) 柳川洋, 中村好一, 屋代真弓, 川崎富作(編). 川崎病の疫学一30年間の総括一. 東京: 診断と治療社, 2002.
- 20) 厚生労働省川崎病研究班. 第17回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2004; 67(2): 313-323.
- 21) 厚生労働省川崎病研究班. 第18回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2006; 69(2): 281-292.
- 22) 屋代真弓, 中村好一, 柳川洋. 川崎病疫学像の最近の推移 1989 ~ 2004. 日本小児科学会雑誌. 2007; 111(6): 740-745.
- 23) 厚生労働省川崎病研究班. 第19回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2008; 71(2): 349-360.
- 24) 川崎病全国調査担当グループ(特定非営利活動法人川崎病研究センター). 第20回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2010; 73(1): 143-156.
- 25) 川崎病全国調査担当グループ(特定非営利活動法人川崎病研究センター). 第21回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2012; 75(3): 507-523.
- 26) Kawasaki T, Kosaki F, Okawa S, Shigematsu I, Yanagawa H. A new infantile acute febrile mucocutaneous lymph node syndrome (MLNS) prevailing in Japan. Pediatrics 1974; 54: 271-276.
- 27) Yanagawa H, Kawasaki T, Shigematsu I. Nationwide survey on Kawasaki disease in Japan. Pediatrics 1987; 80: 58-62.
- 28) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Fujita Y, Nagai M, Kawasaki T, Aso S, Imada Y, Shigematsu I. A nationwide survey of Kawasaki disease in 1985-1986 in Japan. J Infect Dis 1988; 158(6): 1296-1301.
- 29) Yanagawa H, Yashiro M, Nakamura Y, Kawasaki T, Kato H. Epidemiologic pictures of Kawasaki disease in Japan: From the nationwide survey in 1991 and 1992. Pediatrics 1995; 95(4): 475-479.
- 30) Yanagawa H, Yashiro M, Nakamura Y, Kawasaki T, Kato H. Results of 12 nationwide epidemiological incidence surveys of Kawasaki disease in Japan. Arch Pediatr Adolesc Med 1995; 149: 779-783.
- 31) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Ojima T, Koyanagi H, Kawasaki T. Update of the epidemiology of Kawasaki disease in Japan, From the results of 1993-94 nationwide survey. J Epidemiol 1996; 6(3): 148-157.

- 3 2) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Ojima T, Tanihara S, Oki I, Zhang T. Results of the nationwide epidemiologic survey of Kawasaki disease in 1995 and 1996 in Japan. *Pediatrics* 1998; 102(6): e65.
- 3 3) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Oki I, Hirata S, Zhang T, Kawasaki T. Incidence survey of Kawasaki disease in 1997 and 1998 in Japan. *Pediatrics* 2001; 107(3): e33.
- 3 4) Nakamura Y, Yashiro M, Uehara R, Oki I, Watanabe M, Yanagawa H. Epidemiologic Features of Kawasaki Disease in Japan: Results from Nationwide Survey in 2005-2006. *J Epidemiol* 2008; 18(4): 167-172.
- 3 5) Nakamura Y, Yashiro M, Uehara R, Oki I, Watanabe M, Yanagawa H. Monthly observation of the numbers of patients and incidence rates of Kawasaki disease in Japan: results from nationwide surveys. *J Epidemiol* 2008; 18(6): 273-279.
- 3 6) Nakamura Y, Yashiro M, Uehara R, Sadakane A, Chihara I, Aoyama Y, Kotani K, Yanagawa H. Epidemiologic features of Kawasaki disease in Japan: Results of the 2007-2008 nationwide survey. *J Epidemiol* 2010; 20(4): 302-307.
- 3 7) Nakamura Y, Yashiro M, Uehara R, Sadakane A, Tsuboi S, Aoyama Y, Kotani K, Tsogzolbaatar EO, Yanagawa H. Epidemiologic features of Kawasaki disease in Japan: Results of the 2009-2010 nationwide survey. *J Epidemiol* 2012; 22(2): 216-221.

文献 31 と 34-37 は *Journal of Epidemiology* のサイト (<http://www.jstage.jst.go.jp/article/jea/>) で、
文献 32 と 33 は *Pediatrics* のサイト (<http://www.pediatrics.org/cgi/content/>) で読むことができます。

[表1]性別患者数、罹患率、死亡数、致命率の推移

年次	患者数			0-4歳人口10万対年間罹患率*			死亡数 (致命率%)
	計	男	女	計	男	女	
～1964	88	58	30	1.1	1.4	0.8	—
1965	61	33	28	0.8	0.8	0.7	—
1966	79	49	30	1.0	1.2	0.8	—
1967	101	60	41	1.2	1.4	1.0	2(1.98)
1968	310	177	133	3.7	4.1	3.2	6(1.94)
1969	461	281	180	5.3	6.3	4.3	9(1.95)
1970	887	527	360	10.1	11.8	8.4	10(1.13)
1971	804	480	324	8.7	10.1	7.1	10(1.24)
1972	1,135	658	477	12.0	13.5	10.4	16(1.41)
1973	1,524	928	596	15.6	18.4	12.5	34(2.23)
1974	1,963	1,157	806	19.7	22.6	16.7	20(1.02)
1975	2,216	1,332	884	22.3	26.1	18.3	16(0.72)
1976	2,337	1,406	931	23.9	28.0	19.6	15(0.64)
1977	2,798	1,706	1,092	29.3	34.8	23.5	17(0.61)
1978	3,459	2,064	1,395	37.7	43.7	31.2	14(0.40)
1979	6,867	3,987	2,880	78.0	88.1	67.3	34(0.50)
1980	3,932	2,317	1,615	46.5	53.4	39.2	8(0.20)
1981	6,383	3,677	2,706	78.3	87.9	68.2	16(0.25)
1982	15,519	8,762	6,757	196.1	215.8	175.4	46(0.30)
1983	5,961	3,441	2,520	77.3	86.9	67.1	15(0.25)
1984	6,514	3,790	2,724	86.0	97.5	73.9	17(0.26)
1985	7,611	4,430	3,181	102.1	116.4	87.1	10(0.13)
1986	12,847	7,250	5,597	176.8	194.7	157.9	18(0.14)
1987	5,256	3,066	2,190	73.8	84.0	63.1	9(0.17)
1988	5,217	3,056	2,161	75.3	86.0	64.1	4(0.08)
1989	5,591	3,251	2,340	83.6	94.7	71.9	8(0.14)
1990	5,706	3,268	2,438	88.1	98.4	77.3	12(0.21)
1991	5,677	3,354	2,323	90.1	103.8	75.7	7(0.12)
1992	5,544	3,250	2,294	89.9	102.8	76.4	2(0.04)
1993	5,389	3,155	2,234	89.1	101.6	75.9	11(0.20)
1994	6,069	3,574	2,495	101.1	115.9	85.4	2(0.03)
1995	6,107	3,548	2,559	102.6	116.4	88.2	6(0.09)
1996	6,424	3,691	2,733	108.4	121.6	94.6	4(0.06)
1997	6,373	3,690	2,683	108.0	122.0	93.2	9(0.14)
1998	6,593	3,799	2,794	111.5	125.3	96.9	2(0.03)
1999	7,047	4,102	2,945	119.6	135.8	102.6	3(0.04)
2000	8,267	4,758	3,509	141.1	158.5	122.8	5(0.06)
2001	8,113	4,588	3,525	138.8	153.2	123.7	0(-)
2002	8,839	5,156	3,683	151.9	172.8	130.0	2(0.02)
2003	9,146	5,281	3,865	159.2	179.2	138.2	4(0.04)
2004	9,992	5,778	4,214	175.9	198.3	152.4	4(0.04)
2005	10,041	5,868	4,173	181.0	206.5	154.2	1(0.01)
2006	10,434	6,024	4,410	191.4	215.8	165.9	1(0.01)
2007	11,581	6,684	4,897	215.3	242.6	186.6	2(0.02)
2008	11,756	6,839	4,917	219.9	249.6	188.5	4(0.03)
2009	10,975	6,249	4,726	206.2	229.0	182.2	0(-)
2010	12,755	7,266	5,489	242.8	270.2	214.0	1(0.01)
2011	12,774	7,406	5,368	243.1	275.2	209.4	1(0.01)
2012	13,917	8,036	5,881	264.8	298.6	229.4	3(0.02)
計	299,440	173,307	126,133	—	—	—	440(0.15)

*: 罹患率の計算には人口動態統計の分母に用いる日本人人口(5年ごとの国勢調査人口および各年次の推計人口で、人口動態統計に掲載されているもの。ただし、2012年は2011年の推計人口)を用いた。前回調査の2010年は2009年の人口を用いたので今回2010年の人口で修正した。

[表2]年齢別、年次別、性別患者数および罹患率(人口10万対)

年齢	患者数											
	総数				2011年				2012年			
	総数	罹患率*	男	女	総数	罹患率*	男	女	総数	罹患率*	男	女
総数**	26,691	254.0	15,442	11,249	12,774	243.1	7,406	5,368	13,917	264.8	8,036	5,881
0-2か月	448	84.5	274	174	234	88.3	149	85	214	80.8	125	89
3-5か月	1,770	334.0	1,081	689	894	337.4	552	342	876	330.6	529	347
6-8か月	2,078	392.1	1,238	840	1,030	388.7	620	410	1,048	395.5	618	430
9-11か月	2,172	409.8	1,320	852	1,075	405.7	662	413	1,097	414.0	658	439
12-14か月	1,785	344.9	1,065	720	812	313.8	480	332	973	376.0	585	388
15-17か月	1,702	328.9	1,033	669	837	323.5	502	335	865	334.3	531	334
18-20か月	1,578	304.9	904	674	761	294.1	439	322	817	315.7	465	352
21-23か月	1,449	280.0	821	628	645	249.3	366	279	804	310.7	455	349
2歳-2歳5か月	2,503	241.6	1,430	1,073	1,199	231.5	685	514	1,304	251.7	745	559
2歳6か月-11か月	2,174	209.8	1,197	977	1,027	198.3	560	467	1,147	221.4	637	510
3歳-3歳5か月	1,767	165.9	954	813	834	156.6	453	381	933	175.2	501	432
3歳6か月-11か月	1,595	149.8	931	664	775	145.5	457	318	820	154.0	474	346
4歳	2,500	117.9	1,404	1,096	1,182	111.5	659	523	1,318	124.3	745	573
5歳	1,431	65.7	787	644	664	61.0	364	300	767	70.4	423	344
6歳	685	31.4	408	277	314	28.8	174	140	371	34.1	234	137
7歳	397	18.2	227	170	188	17.3	109	79	209	19.2	118	91
8歳	244	11.2	132	112	102	9.4	58	44	142	13.0	74	68
9歳	159	7.3	83	76	81	7.4	44	37	78	7.2	39	39
10歳以上	254	2.2	153	101	120	2.0	73	47	134	2.3	80	54

*罹患率の計算には2011年人口動態統計の分母に用いる日本人人口を用いた。

**総数の罹患率の計算には、0-4歳日本人人口を用いた。

[表3]患者住所都道府県別、年次別、性別患者数および罹患率(0-4歳人口10万対)

	2009年				2010年				2011年				2012年			
	患者数			罹患率*	患者数			罹患率*	患者数			罹患率*	患者数			罹患率*
	総数	男	女		総数	男	女		総数	男	女		総数	男	女	
全国**	10,975	6,249	4,726	206.2	12,755	7,266	5,489	242.8	12,774	7,406	5,368	243.1	13,917	8,036	5,881	264.8
1:北海道	401	248	153	196.6	480	291	189	235.3	427	246	181	212.4	417	243	174	207.5
2:青森	102	53	49	204.0	97	57	40	194.0	104	51	53	212.2	122	67	55	249.0
3:岩手	56	32	24	109.8	71	40	31	139.2	87	55	32	177.6	78	40	38	159.2
4:宮城	174	91	83	179.4	210	124	86	216.5	156	93	63	164.2	175	104	71	184.2
5:秋田	55	26	29	148.6	66	43	23	178.4	76	45	31	217.1	79	42	37	225.7
6:山形	108	61	47	240.0	120	67	53	266.7	128	69	59	290.9	129	79	50	293.2
7:福島	179	100	79	213.1	168	103	65	200.0	195	104	91	256.6	217	126	91	285.5
8:茨城	214	118	96	172.6	260	172	88	209.7	286	181	105	232.5	344	198	146	279.7
9:栃木	188	107	81	218.6	227	137	90	264.0	201	105	96	242.2	244	147	97	294.0
10:群馬	221	126	95	260.0	226	142	84	265.9	272	162	110	331.7	271	138	133	330.5
11:埼玉	509	300	209	166.3	565	320	245	184.6	630	358	272	208.6	723	421	302	239.4
12:千葉	565	314	251	214.0	635	365	270	240.5	673	402	271	259.8	761	465	296	293.8
13:東京	1,086	632	454	214.6	1,331	753	578	263.0	1,317	745	572	255.2	1,390	821	569	269.4
14:神奈川	957	530	427	245.4	1,048	600	448	268.7	937	563	374	242.7	1,088	614	474	281.9
15:新潟	137	82	55	148.9	204	116	88	221.7	227	127	100	249.5	288	166	122	316.5
16:富山	65	29	36	147.7	67	37	30	152.3	81	51	30	192.9	124	61	63	295.2
17:石川	90	52	38	180.0	120	66	54	240.0	122	67	55	249.0	117	62	55	238.8
18:福井	82	49	33	227.8	127	75	52	352.8	106	60	46	302.9	99	66	33	282.9
19:山梨	73	34	39	208.6	69	33	36	197.1	58	27	31	170.6	60	38	22	176.5
20:長野	235	147	88	258.2	285	161	124	313.2	246	139	107	279.5	252	134	118	286.4
21:岐阜	128	60	68	143.8	158	75	83	177.5	222	127	95	255.2	233	125	108	267.8
22:静岡	329	197	132	203.1	375	206	169	231.5	338	202	136	211.2	314	183	131	196.2
23:愛知	783	442	341	227.0	856	494	362	248.1	840	495	345	243.5	971	573	398	281.4
24:三重	163	85	78	206.3	182	98	84	230.4	191	116	75	244.9	182	105	77	233.3
25:滋賀	100	64	36	149.3	122	68	54	182.1	164	102	62	241.2	170	95	75	250.0
26:京都	261	150	111	243.9	289	149	140	270.1	270	164	106	254.7	284	158	126	267.9
27:大阪	694	383	311	185.6	951	526	425	254.3	881	518	363	237.5	985	593	392	265.5
28:兵庫	540	293	247	223.1	619	349	270	255.8	600	346	254	249.0	620	360	260	257.3
29:奈良	102	66	36	182.1	128	81	47	228.6	123	61	62	223.6	136	73	63	247.3
30:和歌山	100	66	34	256.4	140	70	70	359.0	114	56	58	300.0	113	65	48	297.4
31:鳥取	41	26	15	164.0	51	30	21	204.0	54	28	26	225.0	40	25	15	166.7
32:島根	50	35	15	172.4	73	52	21	251.7	73	40	33	251.7	72	38	34	248.3
33:岡山	132	79	53	157.1	183	96	87	217.9	174	97	77	207.1	182	98	84	216.7
34:広島	298	165	133	234.6	339	201	138	266.9	332	196	136	261.4	359	206	153	282.7
35:山口	131	82	49	225.9	113	64	49	194.8	141	74	67	247.4	159	93	66	278.9
36:徳島	82	45	37	273.3	80	49	31	266.7	70	39	31	233.3	73	44	29	243.3
37:香川	95	52	43	220.9	104	58	46	241.9	111	67	44	264.3	112	77	35	266.7
38:愛媛	95	48	47	163.8	120	74	46	206.9	106	62	44	182.8	100	65	35	172.4
39:高知	65	35	30	224.1	60	31	29	206.9	62	39	23	221.4	64	35	29	228.6
40:福岡	504	286	218	221.1	611	327	284	268.0	550	320	230	237.1	572	319	253	246.6
41:佐賀	70	38	32	184.2	83	49	34	218.4	68	45	23	174.4	66	35	31	169.2
42:長崎	86	58	28	143.3	123	71	52	205.0	146	86	60	243.3	140	75	65	233.3
43:熊本	191	115	76	238.8	207	123	84	258.7	276	164	112	340.7	251	143	108	309.9
44:大分	104	56	48	208.0	96	49	47	192.0	145	88	57	290.0	174	92	82	348.0
45:宮崎	69	40	29	135.3	57	30	27	111.8	70	42	28	137.3	111	65	46	217.6
46:鹿児島	149	86	63	198.7	153	83	70	204.0	183	109	74	240.8	276	168	108	363.2
47:沖縄	116	66	50	141.5	105	61	44	128.0	139	71	68	163.5	180	96	84	211.8
48:国外	0	0	0	-	1	0	1	-	2	2	0	-	0	0	0	-

*都道府県別罹患率は2009-2010年は2010年住民基本台帳人口、2011-2012年は2012年住民基本台帳人口を用いて計算した。

**全国の罹患率は各年次の推計人口を用いて計算した(ただし2012年は2011年の推計人口を使用)。

[表4]性別、年齢別、診断の確実度

		総数(%)		定型例(%)		不定型例(%)		不全型(%)	
総数		26,691	(100)	20,915	(78.4)	486	(1.8)	5,274	(19.8)
性別	男	15,442	(100)	12,109	(78.4)	306	(2.0)	3,019	(19.6)
	女	11,249	(100)	8,806	(78.3)	180	(1.6)	2,255	(20.0)
年齢別	0-5か月	2,218	(100)	1,531	(69.0)	74	(3.3)	612	(27.6)
	6-11か月	4,250	(100)	2,970	(69.9)	94	(2.2)	1,183	(27.8)
	1歳	6,514	(100)	5,162	(79.2)	101	(1.6)	1,243	(19.1)
	2歳	4,677	(100)	3,914	(83.7)	68	(1.5)	694	(14.8)
	3歳	3,362	(100)	2,831	(84.2)	52	(1.5)	477	(14.2)
	4歳	2,500	(100)	2,067	(82.7)	36	(1.4)	397	(15.9)
	5歳	1,431	(100)	1,147	(80.2)	20	(1.4)	264	(18.4)
	6歳	685	(100)	526	(76.8)	12	(1.8)	147	(21.5)
	7歳	397	(100)	304	(76.6)	8	(2.0)	84	(21.2)
	8歳	244	(100)	171	(70.1)	3	(1.2)	70	(28.7)
	9歳	159	(100)	114	(71.7)	6	(3.8)	39	(24.5)
	10歳以上	254	(100)	178	(70.1)	12	(4.7)	64	(25.2)

「診断の確実度」不明16人は表から除いたので合計は100%にならない。

[表5]性別、年齢別、不全型の主要症状の数

		患者数 (不全型) (%)		主要症状の数(%)									
				1個		2個		3個		4個		不明*	
総数		5,274	(100)	41	(0.8)	311	(5.9)	1,321	(25.0)	3,575	(67.8)	26	(0.5)
性別	男	3,019	(100)	20	(0.7)	182	(6.0)	793	(26.3)	2,004	(66.4)	20	(0.7)
	女	2,255	(100)	21	(0.9)	129	(5.7)	528	(23.4)	1,571	(69.7)	6	(0.3)
年齢別	0-5か月	612	(100)	18	(2.9)	42	(6.9)	174	(28.4)	375	(61.3)	3	(0.5)
	6-11か月	1,183	(100)	8	(0.7)	96	(8.1)	332	(28.1)	742	(62.7)	5	(0.4)
	1歳	1,243	(100)	7	(0.6)	67	(5.4)	297	(23.9)	861	(69.3)	11	(0.9)
	2歳	694	(100)	4	(0.6)	29	(4.2)	165	(23.8)	493	(71.0)	3	(0.4)
	3歳	477	(100)	2	(0.4)	18	(3.8)	97	(20.3)	359	(75.3)	1	(0.2)
	4歳	397	(100)	2	(0.5)	17	(4.3)	104	(26.2)	272	(68.5)	2	(0.5)
	5歳	264	(100)	0	—	11	(4.2)	55	(20.8)	197	(74.6)	1	(0.4)
	6歳	147	(100)	0	—	11	(7.5)	41	(27.9)	95	(64.6)	0	—
	7歳	84	(100)	0	—	7	(8.3)	16	(19.0)	61	(72.6)	0	—
	8歳	70	(100)	0	—	4	(5.7)	19	(27.1)	47	(67.1)	0	—
	9歳	39	(100)	0	—	4	(10.3)	7	(17.9)	28	(71.8)	0	—
	10歳以上	64	(100)	0	—	5	(7.8)	14	(21.9)	45	(70.3)	0	—

*主要症状の数0個(1人)は不明とした。
四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表6] 性別、初診時年齢別、診断別、死亡例の割合

総数		総数	死亡例	(%)
		26,691	4	0.01
性別	男	15,442	4	0.03
	女	11,249	0	—
初診時年齢別	0-5か月	2,218	2	0.09
	1歳	6,514	1	0.02
	5歳	1,431	1	0.07
診断別	定型例	20,915	3	0.01
	不定型例	486	0	—
	不全型	5,274	1	0.02

[表7] 種類別、性別、年齢別、心障害の出現率

		総数 (%)	巨大瘤 (%)	瘤 (%)	拡大 (%)	狭窄 (%)	心筋梗塞 (%)	弁膜病変 (%)	
初診時の異常	総数	26,691 (100)	11 (0.04)	66 (0.25)	957 (3.59)	3 (0.01)	0 —	244 (0.91)	
	性別	男	15,442 (100)	8 (0.05)	48 (0.31)	676 (4.38)	2 (0.01)	0 —	144 (0.93)
		女	11,249 (100)	3 (0.03)	18 (0.16)	281 (2.50)	1 (0.01)	0 —	100 (0.89)
	年齢別	2歳未満	12,982 (100)	5 (0.04)	32 (0.25)	367 (2.83)	1 (0.01)	0 —	119 (0.92)
		2歳以上	13,709 (100)	6 (0.04)	34 (0.25)	590 (4.30)	2 (0.01)	0 —	125 (0.91)
急性期の異常	総数	26,691 (100)	47 (0.18)	244 (0.91)	1,866 (6.99)	5 (0.02)	1 (0.004)	443 (1.66)	
	性別	男	15,442 (100)	38 (0.25)	167 (1.08)	1,306 (8.46)	4 (0.03)	1 (0.01)	252 (1.63)
		女	11,249 (100)	9 (0.08)	77 (0.68)	560 (4.98)	1 (0.01)	0 —	191 (1.70)
	年齢別	2歳未満	12,982 (100)	18 (0.14)	129 (0.99)	850 (6.55)	1 (0.01)	1 (0.01)	207 (1.59)
		2歳以上	13,709 (100)	29 (0.21)	115 (0.84)	1,016 (7.41)	4 (0.03)	0 —	236 (1.72)
後遺症	総数	26,691 (100)	47 (0.18)	191 (0.72)	466 (1.75)	6 (0.02)	1 (0.004)	98 (0.37)	
	性別	男	15,442 (100)	39 (0.25)	132 (0.85)	344 (2.23)	4 (0.03)	1 (0.01)	51 (0.33)
		女	11,249 (100)	8 (0.07)	59 (0.52)	122 (1.08)	2 (0.02)	0 —	47 (0.42)
	年齢別	2歳未満	12,982 (100)	15 (0.12)	99 (0.76)	233 (1.79)	3 (0.02)	0 —	45 (0.35)
		2歳以上	13,709 (100)	32 (0.23)	92 (0.67)	233 (1.70)	3 (0.02)	1 (0.01)	53 (0.39)

[表8]年齢別、初診時および初回免疫グロブリン(IG)投与開始時病日の分布

		総数(%)		2歳未満(%)		2歳以上(%)	
初診時 病日*	総数	26,684	(100)	12,979	(100)	13,705	(100)
	第1病日	1,164	(4.4)	778	(6.0)	386	(2.8)
	第2病日	3,805	(14.3)	2,163	(16.7)	1,642	(12.0)
	第3病日	6,018	(22.6)	3,061	(23.6)	2,957	(21.6)
	第4病日	6,585	(24.7)	3,108	(23.9)	3,477	(25.4)
	第5病日	4,925	(18.5)	2,198	(16.9)	2,727	(19.9)
	第6病日	2,230	(8.4)	894	(6.9)	1,336	(9.7)
	第7病日	1,016	(3.8)	412	(3.2)	604	(4.4)
	第8病日	399	(1.5)	140	(1.1)	259	(1.9)
	第9病日	213	(0.8)	82	(0.6)	131	(1.0)
	第10病日以上	329	(1.2)	143	(1.1)	186	(1.4)
免疫グロブリン (IG)投与開始時 病日**	総数	24,333	(100)	11,752	(100)	12,581	(100)
	第1病日	16	(0.1)	13	(0.1)	3	(0.02)
	第2病日	284	(1.2)	169	(1.4)	115	(0.9)
	第3病日	1,846	(7.6)	1,136	(9.7)	710	(5.6)
	第4病日	5,642	(23.2)	3,057	(26.0)	2,585	(20.5)
	第5病日	8,915	(36.6)	4,223	(35.9)	4,692	(37.3)
	第6病日	4,251	(17.5)	1,835	(15.6)	2,416	(19.2)
	第7病日	1,919	(7.9)	748	(6.4)	1,171	(9.3)
	第8病日	707	(2.9)	252	(2.1)	455	(3.6)
	第9病日	337	(1.4)	128	(1.1)	209	(1.7)
	第10病日以上	416	(1.7)	191	(1.6)	225	(1.8)

*初診時病日不明(入院中含む)7人を除く26,684人を集計した。

**初回免疫グロブリン(IG)使用例24,346人のうち1日投与量、投与日数、投与開始時病日不明13人を除く24,333人を集計した。

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表9] 性別、年齢別、初回免疫グロブリン(IG)使用の割合

		総数(%)		免疫グロブリン(IG)使用なし(%)		免疫グロブリン(IG)使用あり(%)	
総数		26,691	(100)	2,345	(8.8)	24,346	(91.2)
性別	男	15,442	(100)	1,328	(8.6)	14,114	(91.4)
	女	11,249	(100)	1,017	(9.0)	10,232	(91.0)
年齢別	0-5か月	2,218	(100)	165	(7.4)	2,053	(92.6)
	6-11か月	4,250	(100)	431	(10.1)	3,819	(89.9)
	1歳	6,514	(100)	630	(9.7)	5,884	(90.3)
	2歳	4,677	(100)	369	(7.9)	4,308	(92.1)
	3歳	3,362	(100)	229	(6.8)	3,133	(93.2)
	4歳	2,500	(100)	194	(7.8)	2,306	(92.2)
	5歳	1,431	(100)	134	(9.4)	1,297	(90.6)
	6歳	685	(100)	68	(9.9)	617	(90.1)
	7歳	397	(100)	31	(7.8)	366	(92.2)
	8歳	244	(100)	37	(15.2)	207	(84.8)
	9歳	159	(100)	19	(11.9)	140	(88.1)
	10歳以上	254	(100)	38	(15.0)	216	(85.0)

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表10] 性別、年齢別、初回免疫グロブリン(IG)使用ありの内訳

		免疫グロブリン(IG)使用あり(%)		免疫グロブリン(IG)使用あり(不応例でない)(%)		免疫グロブリン(IG)使用あり(不応例)(%)	
総数*		24,346	(100)	20,196	(83.0)	4,150	(17.0)
性別	男	14,114	(100)	11,519	(81.6)	2,595	(18.4)
	女	10,232	(100)	8,677	(84.8)	1,555	(15.2)
年齢別	0-5か月	2,053	(100)	1,710	(83.3)	343	(16.7)
	6-11か月	3,819	(100)	3,305	(86.5)	514	(13.5)
	1歳	5,884	(100)	4,933	(83.8)	951	(16.2)
	2歳	4,308	(100)	3,568	(82.8)	740	(17.2)
	3歳	3,133	(100)	2,542	(81.1)	591	(18.9)
	4歳	2,306	(100)	1,840	(79.8)	466	(20.2)
	5歳	1,297	(100)	1,050	(81.0)	247	(19.0)
	6歳	617	(100)	510	(82.7)	107	(17.3)
	7歳	366	(100)	303	(82.8)	63	(17.2)
	8歳	207	(100)	167	(80.7)	40	(19.3)
	9歳	140	(100)	107	(76.4)	33	(23.6)
	10歳以上	216	(100)	161	(74.5)	55	(25.5)

*初回免疫グロブリン(IG)使用例24,346人を集計した。
四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表11]性別、年齢別、診断別、ステロイド併用の割合

		初回 免疫グロブリン (IG)使用例(%)		ステロイド併用あり (%)			パルス (%)			パルス以外 (%)		
総数*		24,346	(100)	1,279	(5.3)	[100]	384	(1.6)	[30.0]	912	(3.7)	[71.3]
性別	男	14,114	(100)	761	(5.4)	[100]	239	(1.7)	[31.4]	534	(3.8)	[70.2]
	女	10,232	(100)	518	(5.1)	[100]	145	(1.4)	[28.0]	378	(3.7)	[73.0]
年齢別	0-5か月	2,053	(100)	90	(4.4)	[100]	24	(1.2)	[26.7]	69	(3.4)	[76.7]
	6-11か月	3,819	(100)	160	(4.2)	[100]	46	(1.2)	[28.8]	114	(3.0)	[71.3]
	1歳	5,884	(100)	249	(4.2)	[100]	76	(1.3)	[30.5]	174	(3.0)	[69.9]
	2歳-4歳	9,747	(100)	560	(5.7)	[100]	186	(1.9)	[33.2]	383	(3.9)	[68.4]
	5歳-9歳	2,627	(100)	198	(7.5)	[100]	46	(1.8)	[23.2]	157	(6.0)	[79.3]
	10歳以上	216	(100)	22	(10.2)	[100]	6	(2.8)	[27.3]	15	(6.9)	[68.2]
診断別**	定型例	20,027	(100)	1,107	(5.5)	[100]	335	(1.7)	[30.3]	787	(3.9)	[71.1]
	不定型例	445	(100)	23	(5.2)	[100]	7	(1.6)	[30.4]	16	(3.6)	[69.6]
	不全型	3,871	(100)	149	(3.8)	[100]	42	(1.1)	[28.2]	109	(2.8)	[73.2]

*()内は初回免疫グロブリン(IG)使用例 24,346人を集計した。

**初回免疫グロブリン(IG)使用例 24,346人のうち診断不明3人は除いた。

*[]内はステロイド併用あり1,279人を集計した。1人の患者に両方用いている例があるため、横の合計は総数を超えることがある。両方なし(不明)9人も総数に含まれている。
四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表12]性別、年齢別、初回免疫グロブリン(IG)投与医療機関の内訳

		総数 (%)		報告施設で投与 (%)		前医で投与 (%)		不明 (%)	
総数*		24,341	(100)	23,870	(98.1)	236	(1.0)	235	(1.0)
性別	男	14,112	(100)	13,824	(98.0)	162	(1.1)	126	(0.9)
	女	10,229	(100)	10,046	(98.2)	74	(0.7)	109	(1.1)
年齢別	0-5か月	2,053	(100)	2,007	(97.8)	14	(0.7)	32	(1.6)
	6-11か月	3,817	(100)	3,752	(98.3)	30	(0.8)	35	(0.9)
	1歳	5,884	(100)	5,774	(98.1)	60	(1.0)	50	(0.8)
	2歳	4,308	(100)	4,229	(98.2)	47	(1.1)	32	(0.7)
	3歳	3,131	(100)	3,070	(98.1)	27	(0.9)	34	(1.1)
	4歳	2,305	(100)	2,252	(97.7)	30	(1.3)	23	(1.0)
	5歳	1,297	(100)	1,266	(97.6)	19	(1.5)	12	(0.9)
	6歳	617	(100)	611	(99.0)	0	-	6	(1.0)
	7歳	366	(100)	359	(98.1)	5	(1.4)	2	(0.5)
	8歳	207	(100)	204	(98.6)	2	(1.0)	1	(0.5)
	9歳	140	(100)	134	(95.7)	1	(0.7)	5	(3.6)
	10歳以上	216	(100)	212	(98.1)	1	(0.5)	3	(1.4)

*初回免疫グロブリン(IG)使用例24,346人のうち1日投与量、投与日数不明5人を除く24,341人
四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表13]初回免疫グロブリン(IG)1日投与量(mg/kg)別、投与日数の分布

	総数および%		1日	2日	3日	4日以上	
	総数	%					
総数*	24,341 (100)	[100]	22,987 (94.44)	1,290 (5.30)	15 (0.06)	49 (0.20)	
-299mg/kg	7	[0.03]	2	0	1	4	
300-499mg/kg	10	[0.04]	2	0	0	8	
500-699mg/kg	22	[0.09]	2	2	0	18	
700-899mg/kg	27	[0.11]	4	5	0	18	
900-1099mg/kg	2,040	[8.38]	914	1,119	6	1	
1100-1299mg/kg	39	[0.16]	25	14	0	0	
1300-1499mg/kg	10	[0.04]	9	1	0	0	
1500-1699mg/kg	20	[0.08]	20	0	0	0	
1700-1899mg/kg	136	[0.56]	136	0	0	0	
1900-2099mg/kg	21,869	[89.84]	21,715	146	8	0	
2100mg/kg+	161	[0.66]	158	3	0	0	
再掲	200mg/kg	2	[0.01]	1	0	0	1
	400mg/kg	7	[0.03]	0	0	0	7
	1000mg/kg	1,927	[7.92]	890	1,030	6	1
	2000mg/kg	21,451	[88.13]	21,298	145	8	0
	その他	954	[3.92]	798	115	1	40

*初回免疫グロブリン(IG)使用例24,346人のうち1日投与量、投与日数不明5人を除く、24,341人を集計した。
()内は横向きのを示す。

[表14]性別、年齢別、診断別、初回免疫グロブリン(IG)投与後の追加治療法

		総数 (%)	免疫グロブリン (IG)追加投与 (%)	ステロイド投与 (%)	infiximab投与 (%)	免疫抑制剤投与 (%)	血漿交換 (%)
総数*		24,346 (100)	4,569 (18.8)	1,441 (5.9)	192 (0.79)	171 (0.70)	103 (0.42)
性別	男	14,114 (100)	2,859 (20.3)	904 (6.4)	131 (0.93)	111 (0.79)	75 (0.53)
	女	10,232 (100)	1,710 (16.7)	537 (5.2)	61 (0.60)	60 (0.59)	28 (0.27)
年齢別	2歳未満	11,756 (100)	2,015 (17.1)	607 (5.2)	75 (0.64)	79 (0.67)	49 (0.42)
	2歳以上	12,590 (100)	2,554 (20.3)	834 (6.6)	117 (0.93)	92 (0.73)	54 (0.43)
診断別**	定型例	20,027 (100)	4,026 (20.1)	1,281 (6.4)	180 (0.90)	148 (0.74)	95 (0.47)
	不定型例	445 (100)	71 (16.0)	19 (4.3)	2 (0.45)	5 (1.12)	4 (0.90)
	不全型	3,871 (100)	471 (12.2)	141 (3.6)	10 (0.26)	18 (0.46)	4 (0.10)

*初回免疫グロブリン(IG)使用例 24,346人を集計した。

**初回免疫グロブリン(IG)使用例 24,346人のうち診断不明3人は除いた。

1人の患者に複数の治療法を用いている例がある。

[表15]性別、年齢別、診断別、初回免疫グロブリン(IG)投与後の追加治療法(初回(IG)不応例)

		総数 (%)	免疫グロブリン (IG)追加投与 (%)	ステロイド投与 (%)	infiximab投与 (%)	免疫抑制剤投与 (%)	血漿交換 (%)
総数*		4,150 (100)	3,798 (91.5)	1,245 (30.0)	179 (4.31)	155 (3.73)	93 (2.24)
性別	男	2,595 (100)	2,396 (92.3)	794 (30.6)	125 (4.82)	103 (3.97)	69 (2.66)
	女	1,555 (100)	1,402 (90.2)	451 (29.0)	54 (3.47)	52 (3.34)	24 (1.54)
年齢別	2歳未満	1,808 (100)	1,672 (92.5)	525 (29.0)	67 (3.71)	70 (3.87)	44 (2.43)
	2歳以上	2,342 (100)	2,126 (90.8)	720 (30.7)	112 (4.78)	85 (3.63)	49 (2.09)
診断別**	定型例	3,639 (100)	3,350 (92.1)	1,112 (30.6)	172 (4.73)	136 (3.74)	88 (2.42)
	不定型例	62 (100)	55 (88.7)	17 (27.4)	1 (1.61)	4 (6.45)	3 (4.84)
	不全型	448 (100)	392 (87.5)	116 (25.9)	6 (1.34)	15 (3.35)	2 (0.45)

*初回免疫グロブリン(IG)使用例 24,346人のうち不応例4,150人を集計した。

**不応例のうち、診断不明1人は除いた。

1人の患者に複数の治療法を用いている例があるので、横の合計は総数を超えることがある。

[表16]性別、年齢別、初診時白血球数の割合

		総数(%)		<10000	10000-	14000-	18000-	22000-
総数*		26,496	(100)	4,507 (17.0)	8,751 (33.0)	7,374 (27.8)	3,657 (13.8)	2,207 (8.3)
性別	男	15,342	(100)	2,625 (17.1)	5,045 (32.9)	4,225 (27.5)	2,139 (13.9)	1,308 (8.5)
	女	11,154	(100)	1,882 (16.9)	3,706 (33.2)	3,149 (28.2)	1,518 (13.6)	899 (8.1)
年齢別	0-5か月	2,208	(100)	279 (12.6)	648 (29.3)	675 (30.6)	367 (16.6)	239 (10.8)
	6-11か月	4,221	(100)	549 (13.0)	1,322 (31.3)	1,323 (31.3)	681 (16.1)	346 (8.2)
	1歳	6,461	(100)	1,277 (19.8)	2,349 (36.4)	1,771 (27.4)	744 (11.5)	320 (5.0)
	2歳-4歳	10,450	(100)	1,767 (16.9)	3,533 (33.8)	2,841 (27.2)	1,390 (13.3)	919 (8.8)
	5歳-9歳	2,902	(100)	540 (18.6)	819 (28.2)	724 (24.9)	452 (15.6)	367 (12.6)
	10歳以上	254	(100)	95 (37.4)	80 (31.5)	40 (15.7)	23 (9.1)	16 (6.3)

*検査値あり26,496人を集計した。

単位: / μ L

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表17]性別、年齢別、初診時血小板数の割合

		総数(%)		<25	25-	30-	35-	40-
総数*		26,431	(100)	4,846 (18.3)	5,481 (20.7)	5,751 (21.8)	4,216 (16.0)	6,137 (23.2)
性別	男	15,301	(100)	2,785 (18.2)	3,096 (20.2)	3,332 (21.8)	2,426 (15.9)	3,662 (23.9)
	女	11,130	(100)	2,061 (18.5)	2,385 (21.4)	2,419 (21.7)	1,790 (16.1)	2,475 (22.2)
年齢別	0-5か月	2,205	(100)	147 (6.7)	189 (8.6)	355 (16.1)	408 (18.5)	1,106 (50.2)
	6-11か月	4,212	(100)	415 (9.9)	615 (14.6)	887 (21.1)	780 (18.5)	1,515 (36.0)
	1歳	6,449	(100)	1,142 (17.7)	1,309 (20.3)	1,393 (21.6)	1,107 (17.2)	1,498 (23.2)
	2歳-4歳	10,423	(100)	2,135 (20.5)	2,565 (24.6)	2,464 (23.6)	1,556 (14.9)	1,703 (16.3)
	5歳-9歳	2,891	(100)	864 (29.9)	748 (25.9)	623 (21.5)	355 (12.3)	301 (10.4)
	10歳以上	251	(100)	143 (57.0)	55 (21.9)	29 (11.6)	10 (4.0)	14 (5.6)

*検査値あり26,431人を集計した。

単位: 万 / μ L

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表18]性別、年齢別、初診時アルブミン値の割合

		総数(%)		<3.2	3.2-	3.6-	4.0-	4.4-
総数*		25,087	(100)	1,826 (7.3)	4,791 (19.1)	9,069 (36.2)	7,076 (28.2)	2,325 (9.3)
性別	男	14,529	(100)	1,081 (7.4)	2,777 (19.1)	5,347 (36.8)	4,006 (27.6)	1,318 (9.1)
	女	10,558	(100)	745 (7.1)	2,014 (19.1)	3,722 (35.3)	3,070 (29.1)	1,007 (9.5)
年齢別	0-5か月	2,037	(100)	138 (6.8)	326 (16.0)	724 (35.5)	652 (32.0)	197 (9.7)
	6-11か月	4,024	(100)	195 (4.8)	624 (15.5)	1,361 (33.8)	1,354 (33.6)	490 (12.2)
	1歳	6,156	(100)	404 (6.6)	1,167 (19.0)	2,308 (37.5)	1,730 (28.1)	547 (8.9)
	2歳-4歳	9,902	(100)	828 (8.4)	2,068 (20.9)	3,647 (36.8)	2,553 (25.8)	806 (8.1)
	5歳-9歳	2,737	(100)	234 (8.5)	554 (20.2)	956 (34.9)	728 (26.6)	265 (9.7)
	10歳以上	231	(100)	27 (11.7)	52 (22.5)	73 (31.6)	59 (25.5)	20 (8.7)

*検査値あり25,087人を集計した。

単位:g/dL

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

[表19]性別、年齢別、初診時CRP値の割合

		総数(%)		<1	1-	5-	10-	15-
総数*		26,481	(100)	794 (3.0)	8,441 (31.9)	10,431 (39.4)	4,502 (17.0)	2,313 (8.7)
性別	男	15,333	(100)	495 (3.2)	4,947 (32.3)	6,000 (39.1)	2,611 (17.0)	1,280 (8.3)
	女	11,148	(100)	299 (2.7)	3,494 (31.3)	4,431 (39.7)	1,891 (17.0)	1,033 (9.3)
年齢別	0-5か月	2,207	(100)	38 (1.7)	925 (41.9)	947 (42.9)	230 (10.4)	67 (3.0)
	6-11か月	4,218	(100)	154 (3.7)	1,694 (40.2)	1,681 (39.9)	527 (12.5)	162 (3.8)
	1歳	6,458	(100)	265 (4.1)	2,497 (38.7)	2,553 (39.5)	795 (12.3)	348 (5.4)
	2歳-4歳	10,446	(100)	243 (2.3)	2,657 (25.4)	4,141 (39.6)	2,218 (21.2)	1,187 (11.4)
	5歳-9歳	2,900	(100)	79 (2.7)	606 (20.9)	1,039 (35.8)	674 (23.2)	502 (17.3)
	10歳以上	252	(100)	15 (6.0)	62 (24.6)	70 (27.8)	58 (23.0)	47 (18.7)

*検査値あり26,481人を集計した。

単位:mg/dL

四捨五入の関係で百分率の合計は100%にならないことがある。

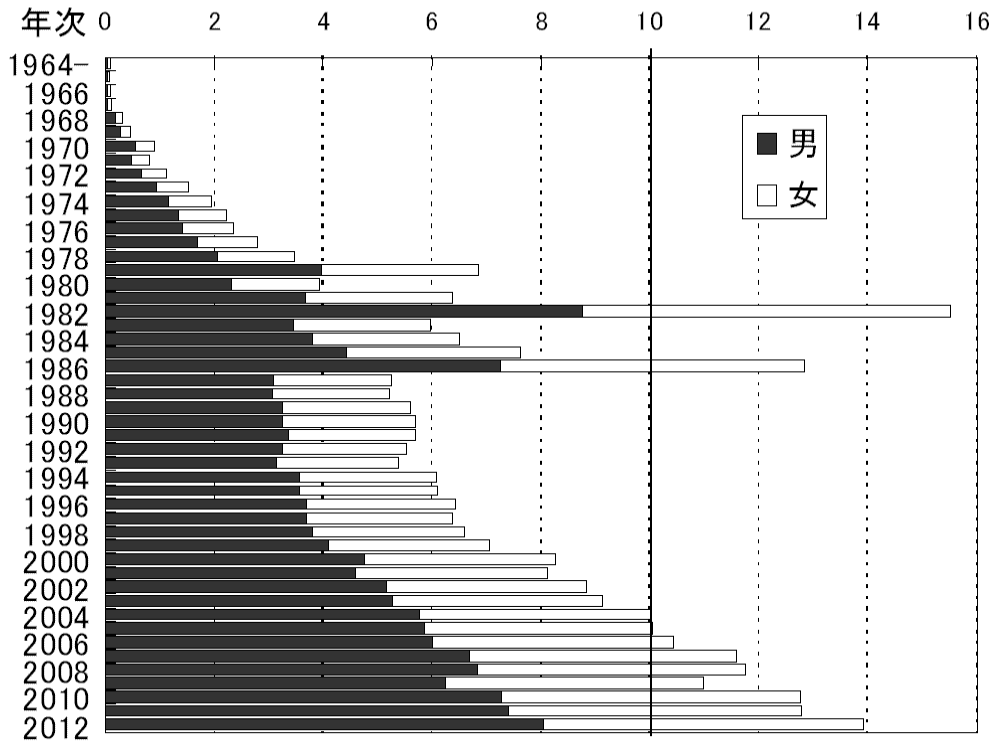
[表20]性別、年齢別、心障害の有無別、診断別、転院の割合

		総数(%)		転院あり(%)		
総数		26,691	(100)	1,191	(4.5)	
性別	男	15,442	(100)	727	(4.7)	
	女	11,249	(100)	464	(4.1)	
年齢別	0-5か月	2,218	(100)	121	(5.5)	
	6-11か月	4,250	(100)	177	(4.2)	
	1歳	6,514	(100)	256	(3.9)	
	2歳-4歳	10,539	(100)	484	(4.6)	
	5歳-9歳	2,916	(100)	138	(4.7)	
	10歳以上	254	(100)	15	(5.9)	
心障害	初診時の異常	あり	1,241	(100)	116	(9.3)
		なし	25,198	(100)	973	(3.9)
		不明	252	(100)	102	(40.5)
	急性期の異常	あり	2,487	(100)	232	(9.3)
		なし	23,971	(100)	772	(3.2)
		不明	233	(100)	187	(80.3)
	後遺症	あり	754	(100)	98	(13.0)
		なし	25,260	(100)	737	(2.9)
		不明	677	(100)	356	(52.6)
診断別*	定型例	20,915	(100)	975	(4.7)	
	不定型例	486	(100)	25	(5.1)	
	不全型	5,274	(100)	179	(3.4)	

*「診断の確実度」不明16人は表から除いた。

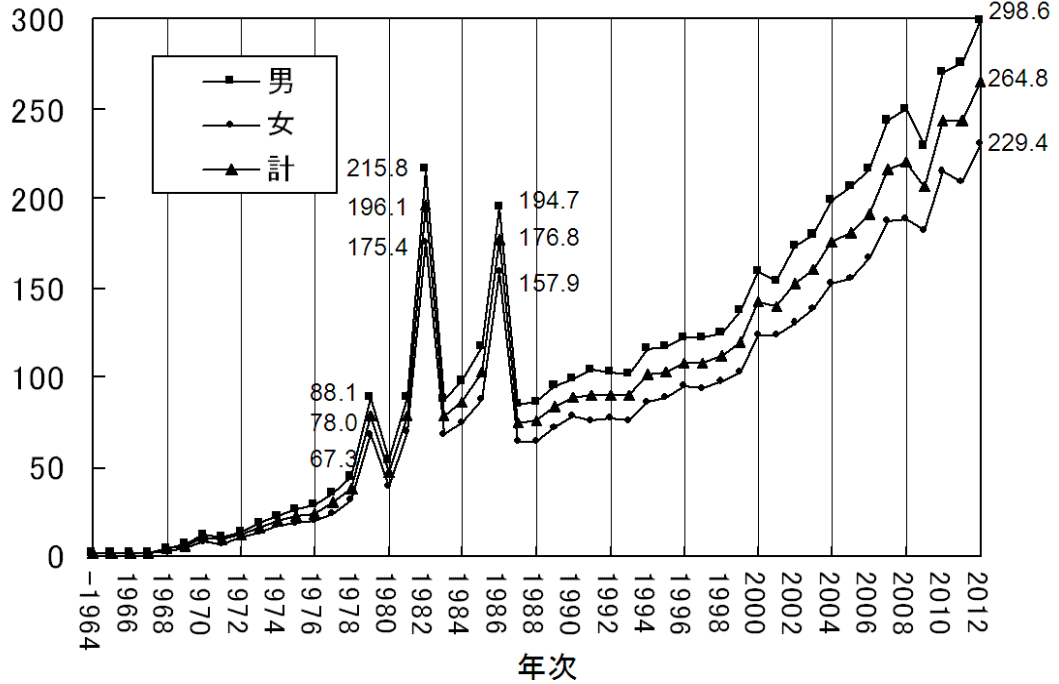
[図1] 年次別、性別患者数

千人

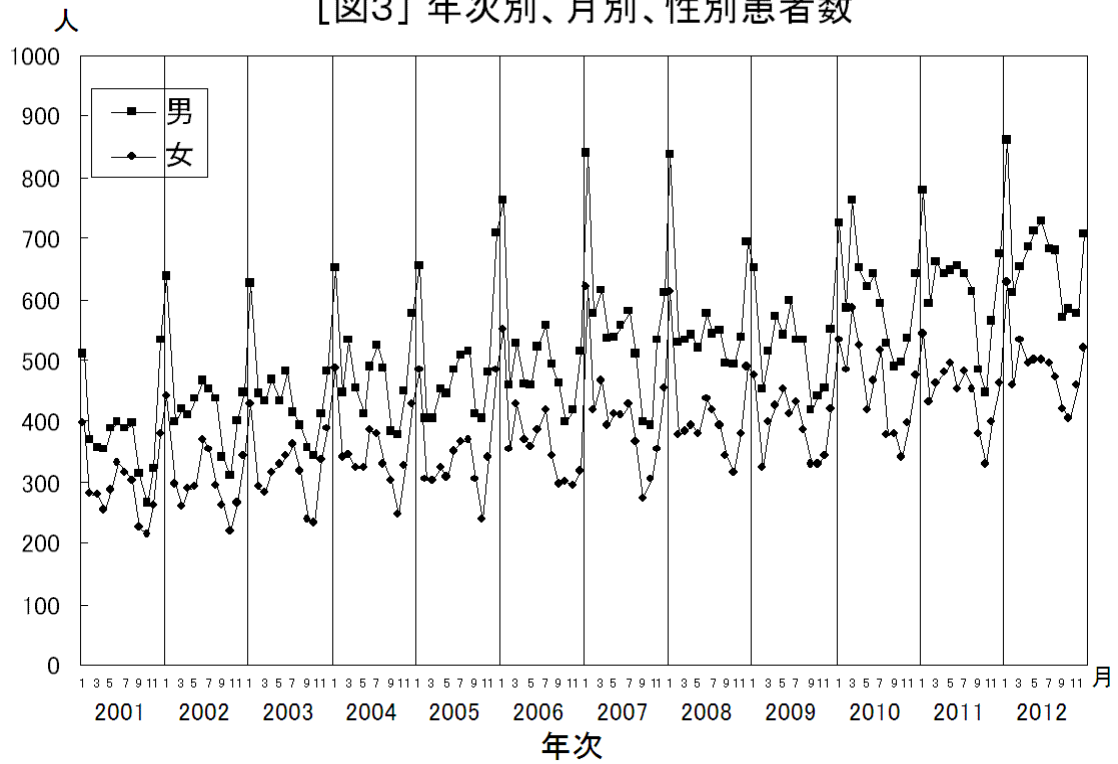


[図2] 年次別、性別罹患率

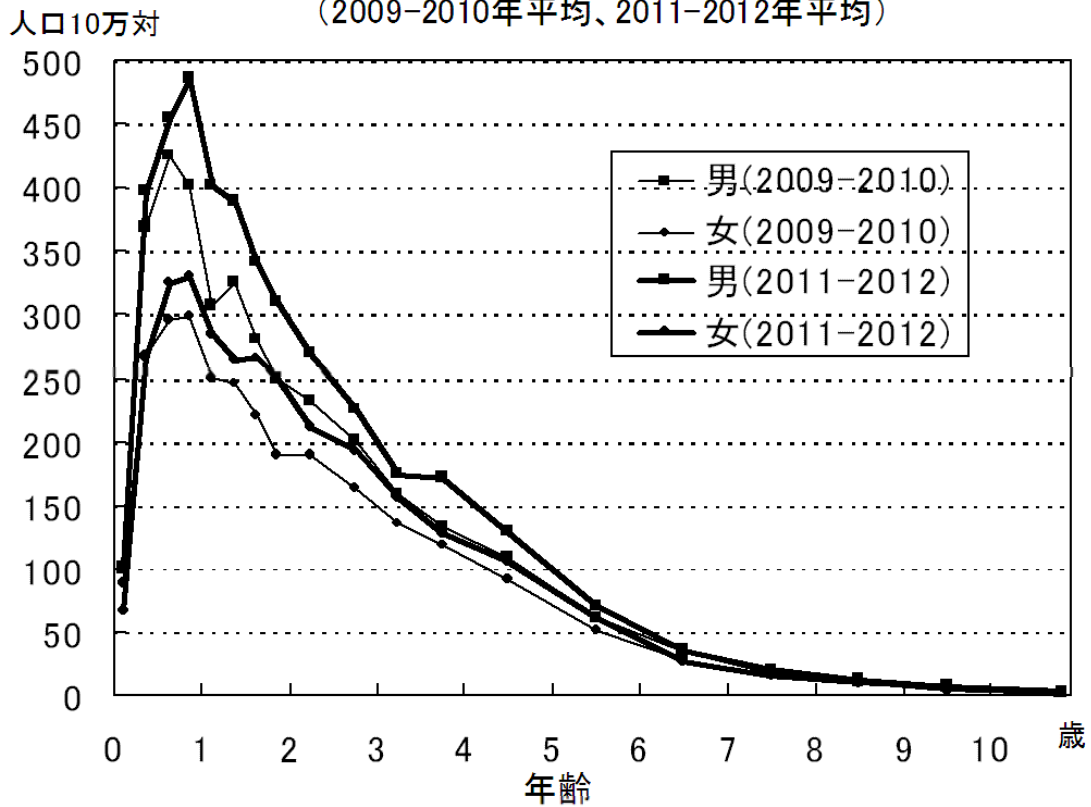
0-4歳人口10万対



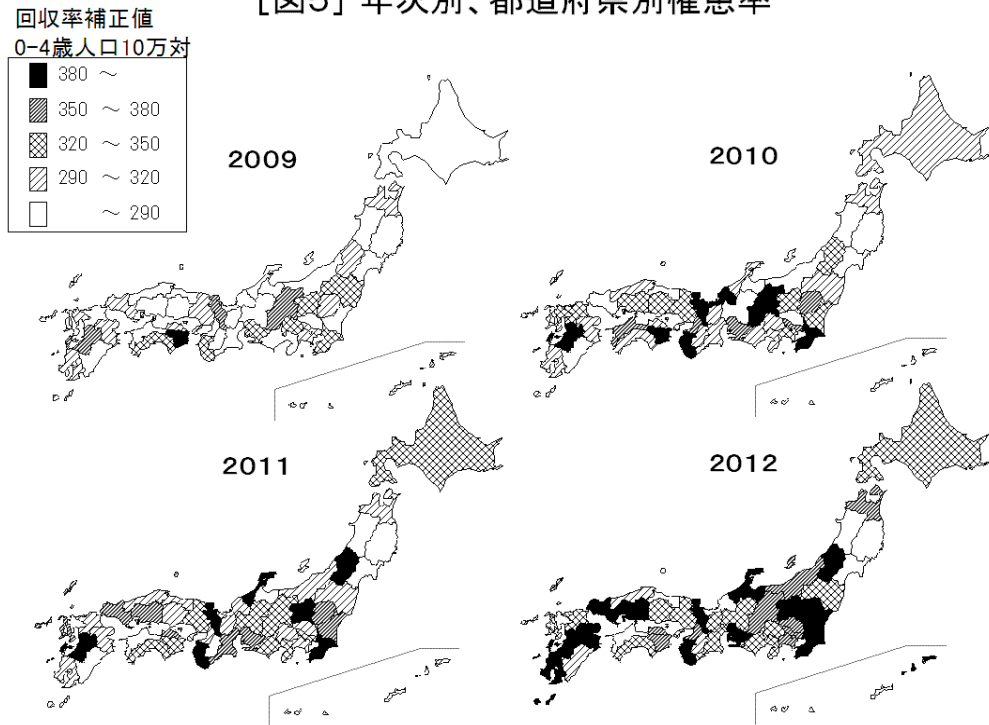
[図3] 年次別、月別、性別患者数



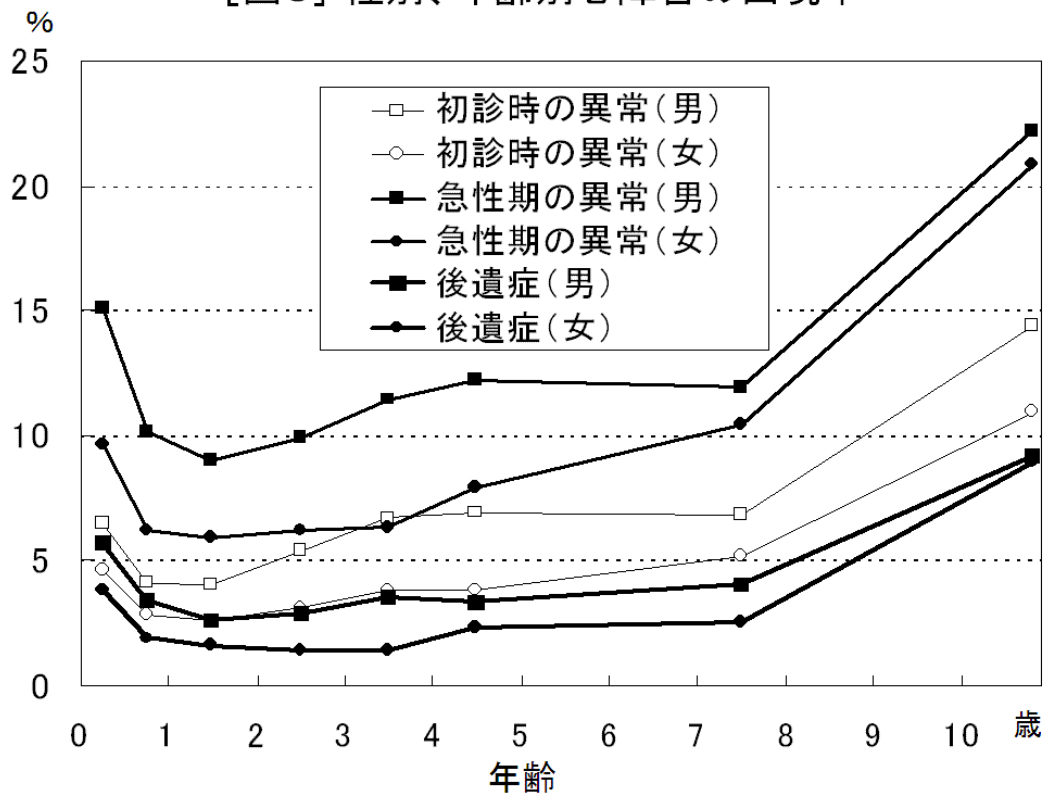
[図4] 年次別、性別、年齢別罹患率
(2009-2010年平均、2011-2012年平均)



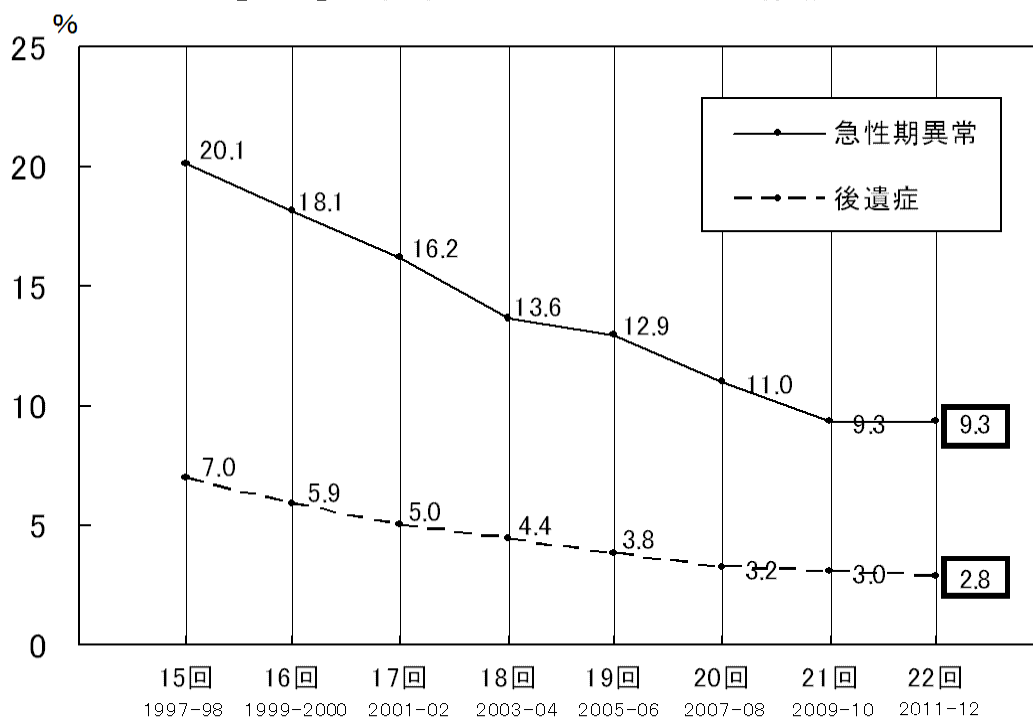
[図5] 年次別、都道府県別罹患率



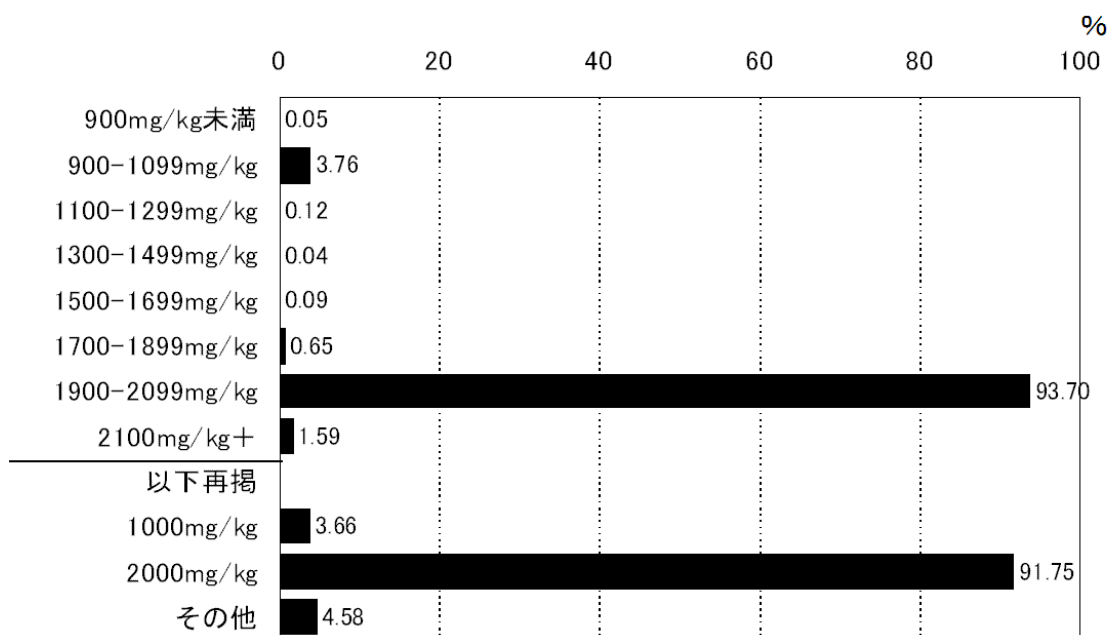
[図6] 性別、年齢別心障害の出現率



[図7] 心障害の出現割合の年次推移



[図8] 初回免疫グロブリン(IG)使用総量の分布



* 初回IG使用例24,346人のうち1日投与量、投与日数不明5人を除く24,341人を集計

第22回全国調査協力施設名（都道府県別、順不同）

1. 北海道

独立行政法人国立病院機構旭川医療センター
独立行政法人国立病院機構八雲病院
国立大学法人北海道大学病院
札幌鉄道病院
NTT 東日本札幌病院
札幌医科大学附属病院
道立旭川肢体不自由児総合療育センター
広域紋別病院
道立羽幌病院
市立札幌病院
市立小樽病院
市立函館病院
江別市立病院
市立千歳市民病院
岩見沢市立総合病院
市立美瑛病院
砂川市立病院
市立赤平総合病院
深川市立病院
市立旭川病院
名寄市立総合病院
苫小牧市立病院
公立茅室病院
町立別海病院
市立稚内病院
留萌市立病院
旭川赤十字病院
総合病院伊達赤十字病院
浦河赤十字病院
清水赤十字病院
総合病院釧路赤十字病院
総合病院北見赤十字病院
社会事業協会・余市病院
岩内協会病院
社会事業協会・帯広病院
JA 北海道厚生連札幌厚生病院
JA 北海道厚生連帯広厚生病院
JA 北海道厚生連遠軽厚生病院
北海道社会保険病院
社会医療法人母恋日鋼記念病院
王子総合病院
共愛会病院
勤医協札幌病院
札幌社会保険総合病院
五輪橋産科婦人科小児科病院
慶愛病院
北楡会札幌北楡病院
北海道立子ども総合医療・療育センター
自衛隊札幌病院
KKR 札幌医療センター
国立大学法人旭川医科大学医学部附属病院
（財）小児愛育協会附属愛育病院
北海道療育園
勤医協中央病院
新雨竜第一病院
医療法人浩仁会恵庭第一病院
市立士別総合病院
札幌マタニティウイメンズ`ホスピタル
医療法人徳洲会札幌徳洲会病院
手稲溪仁会病院
（医療法人）北農会恵み野病院
豊岡中央病院
シロアムこどもクリニック

2. 青森県

独立行政法人国立病院機構弘前病院
国立大学法人弘前大学医学部附属病院
青森県立中央病院

青森市民病院
八戸市立市民病院
国民健康保険五戸総合病院
黒石市国保黒石病院
つがる西北五広域連合鶴田診療所
つがる西北五広域連合西北中央病院
つがる西北五広域連合かなぎ病院
公立野辺地病院
公立七戸病院
むつ総合病院
八戸赤十字病院
県立あすなろ医療療育センター
市立三沢病院
弘前市立病院
（財）双仁会 厚生病院
青森労災病院
津軽保健生活協同組合健生病院
美保野病院
医療法人赤心会十和田東病院

3. 岩手県

岩手県立釜石病院
岩手県立宮古病院
岩手県立胆沢病院
岩手県立磐井病院
岩手県立高田病院（仮設診療所）
岩手県立大船渡病院
岩手県立久慈病院
岩手県立二戸病院
盛岡赤十字病院
北上済生会病院
もりおかこども病院
啓愛会美希病院
盛岡友愛病院
岩手県立中部病院
独立行政法人国立病院機構盛岡病院
川久保病院
岩手県立遠野病院
東八幡平病院

4. 宮城県

国立病院機構仙台医療センター
独立行政法人国立病院機構宮城病院
国立大学法人東北大学医学部附属病院
J R仙台病院
仙台市立病院
大崎市民病院
みやぎ県南中核病院
公立黒川病院
総合病院仙台赤十字病院
東北公済病院
（財）宮城厚生協会坂総合病院
真壁病院
エコ療育園
スズキ記念病院
光ヶ丘スベルマン病院
東北労災病院
自衛隊仙台病院
NTT 東日本東北病院
（財）宮城厚生協会 長町病院
宮城県拓桃医療療育センター
登米市立米谷病院

5. 秋田県

大館市立総合病院
男鹿みさと市民病院
秋田市立秋田総合病院
仙北市立角館総合病院
市立横手病院

秋田赤十字病院
鹿角組合総合病院
山本組合総合病院
秋田組合総合病院
由利組合総合病院
仙北組合総合病院
平鹿総合病院
雄勝中央病院
中通総合病院
外旭川病院
佐藤病院
秋田社会保険病院
秋田大学医学部附属病院
北秋田市民病院
藤原記念病院

6. 山形県

山形県立中央病院
山形県立新庄病院
天童市民病院
山形市立病院済生館
鶴岡市立荘内病院
公立高島病院
米沢市立病院
済生会 山形済生病院
（医療）篠田好生会篠田総合病院
日本海総合病院
公立置賜総合病院
新庄徳洲会病院
山形大学医学部附属病院
鶴岡協立病院
独立行政法人国立病院機構山形病院

7. 福島県

福島県立医科大学附属病院
公立藤田総合病院
公立岩瀬病院
いわき市立総合磐城共立病院
南相馬市立総合病院
総合病院福島赤十字病院
白河厚生総合病院
塙厚生病院
坂下厚生総合病院
社保二本松病院
（財）大原総合病院
寿泉堂総合病院
（財）竹田総合病院
（財）常磐病院
福島整肢療護園
財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院
財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院
総合会津中央病院
新生会内科小児科佐藤病院
県立南会津病院
独立行政法人国立病院機構福島病院
（財）星総合病院
（財）松村総合病院
独立行政法人国立病院機構いわき病院
医療協わたり病院
医療法人昨雲会飯塚病院附属有隣病院
福島県総合療育センター
医療法人三愛会池田温泉病院
公立相馬総合病院

8. 茨城県

独立行政法人国立病院機構霞ヶ浦医療センター
茨城県立こども福祉医療センター
水戸済生会総合病院
神栖済生会病院

総合病院土浦協同病院
国公共済連水府病院
総合病院東京医科大学茨城医療センター
日立製作所 ひたちなか総合病院
城南病院
石岡第一病院
県立こども病院
那珂中央クリニック
威恵会三岳荘小松崎病院
なめがた地域総合病院
龍ヶ崎済生会病院
常陸大宮済生会病院
県西総合病院
（医療）愛宣会 秦病院
（医療）盡誠会 宮本病院
株式会社日立製作所日立総合病院
筑西市市民病院
筑波大学附属病院
古河赤十字病院
（医療）住吉クリニック病院
（医療）愛正会 田尻ヶ丘病院
惇慈会日立港病院
（医療）常仁会牛久愛和総合病院
（財）筑波学園病院
（医療）厚友会 城西病院
友愛記念病院
北茨城市立総合病院
高萩協同病院
財団法人筑波メディカルセンター病院
きぬ医師会病院
茨城西南医療センター病院

9. 栃木県

独立行政法人国立病院機構栃木病院
小山市民病院
芳賀赤十字病院
足利赤十字病院
済生会 宇都宮病院
上都賀総合病院
佐野厚生総合病院
宇都宮社会保険病院
日光市民病院
社会医療法人博愛会 菅間記念病院
独立行政法人国立病院機構宇都宮病院
光南病院
医療法人社団友志会 野木病院
南那須地区広域行政事務組合立那須南病院
医療法人中山会 宇都宮記念病院
自治医科大学附属病院
獨協医科大学病院小児科
黒須病院
菅又病院
とちぎリハビリテーションセンター
西方病院
とちの木病院

10. 群馬県

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター
独立行政法人国立病院機構沼田病院
桐生厚生総合病院
藤岡総合病院
碓氷病院
伊勢崎市民病院
前橋赤十字病院
公立富岡総合病院
社保群馬中央総合病院
富士重工健康保険組合総合太田病院
利根中央病院
群馬県立小児医療センター
西吾妻福祉病院
産科婦人科館出張佐藤病院
済生会前橋病院
前橋協立病院
（医療）山崎会サンピエール病院

重症心身障害児施設はんなさわらび療育園
希望の家療育病院
群馬整肢療護園
高崎中央病院
小児科佐藤病院

11. 埼玉県

独立行政法人国立病院機構西埼玉中央病院
独立行政法人国立病院機構埼玉病院
蕨市立病院
春日部市立病院
草加市立病院
埼玉県済生会川口総合病院
埼玉厚生農協連熊谷総合病院
埼玉社会保険病院
（財）東松山医師会病院
戸田中央総合病院
（医療）健仁会 益子病院
（医療）ヘブロン会大宮中央総合病院
医療法人愛生会 愛生会病院
丸山記念総合病院
埼玉県済生会栗橋病院
北里研究所メディカルセンター病院
川口市立医療センター
ヘリオス会病院
秩父市立病院
本庄総合病院
土屋小児病院
熊谷生協病院
三愛会総合病院
埼玉医療生活協同組合皆野病院
医療法人壮幸会 行田総合病院
自治医科大学附属さいたま医療センター
飯能中央病院
埼玉医科大学病院
さいたま市立病院
独立行政法人国立病院機構東埼玉病院
越谷市立病院
（医社）新座志木中央総合病院
朝霞台中央総合病院
（医社）協友会八潮中央総合病院
防衛医科大学校病院
（医療）聖仁会 西部総合病院
（医社）東光会 戸田中央産院
埼玉協同病院
至誠堂富田病院
（医療）関越病院
（医療）誠壽会 上福岡総合病院
（医療）光仁会 春日部厚生病院
医療法人社団協友会東川口病院
埼玉医療生活協同組合羽生病院
春日部秀和病院
獨協医科大学越谷病院
埼玉筑波病院
医療法人一心会伊奈病院
医療法人社団堀ノ内病院
医療法人赤心堂病院
埼玉医科大学総合医療センター
行田中央病院
医療法人社団哺育会白岡中央病院
社会医療法人財団石心会埼玉石心会病院
至聖病院

12. 千葉県

独立行政法人国立病院機構千葉医療センター
独立行政法人国立病院機構下志津病院
千葉大学医学部附属病院
千葉県立東金病院
千葉県循環器病センター
千葉市立青葉病院
東京ベイ・浦安市川医療センター
国保松戸市立病院
国保直営総合病院君津中央病院
成田赤十字病院

千葉県済生会習志野病院
医療法人社団誠馨会千葉メディカルセンター
（医療）鉄蕉会 亀田総合病院
東京歯科大学市川総合病院
キッコーマン総合病院
医療法人社団聖仁会白井聖仁会病院
岬病院
千葉県こども病院
東邦大学医学部附属佐倉病院
野田病院
日本医科大学附属千葉北総病院
国保多古中央病院
医療法人鳳生会 成田病院
医療法人 鎗田病院
東京女子医科大学附属八千代医療センター
国保小見川総合病院
（医療）聖峰会 岡田病院
独立行政法人国立病院機構千葉東病院
（医社）千葉健生病院
医療法人社団聖仁会我孫子聖仁会病院
千葉県千葉リハビリテーションセンター
（医財）明理会新松戸中央総合病院
聖隷佐倉市民病院
（医社）上総会 山之内病院
（医療）公明会 塩田病院
（医社）勤労者医協船橋二和病院
（医社）協友会 船橋総合病院
（医社）協友会 柏厚生総合病院
東葛病院
千葉市立海浜病院
順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院
船橋市立医療センター
（医社）愛友会 千葉愛友会記念病院
医療法人社団保健会谷津保健病院
医療法人三矢会八街総合病院
帝京大学ちば総合医療センター
東京慈恵会医科大学附属柏病院

13. 東京都

国立がんセンター中央病院
独立行政法人国立国際医療研究センター病院
国立成育医療研究センター
独立行政法人国立病院機構東京医療センター
東京大学病院
東京医科歯科大学病院
NTT 東日本関東病院
東京通信病院
自衛隊中央病院
都立駒込病院
都立墨東病院
都立荏原病院
都立広尾病院
東京都立大塚病院
都立北療育医療センター
青梅市立総合病院
日野市立病院
稲城市立病院
公立昭和病院
総合病院大森赤十字病院
日本赤十字社医療センター
葛飾赤十字産院
武蔵野赤十字病院
東京都済生会中央病院
公立福生病院
社保蒲田総合病院
東京厚生年金病院
虎の門病院
総合病院三宿病院
公立学校共済組合 関東中央病院
国家公務員共済組合連合会立川病院
聖路加国際病院
北里研究所病院
永寿総合病院
（社）至誠会第二病院

練馬総合病院
田園調布中央病院
世田谷中央病院
荻窪病院
（医社）関川病院
成和会 西新井病院
（医社）大坪会 北多摩病院
杏林大学医学部付属病院
日本大学駿河台病院
東京慈恵会医科大学病院
東京女子医科大学病院
慶應義塾大学病院
東京医科大学病院
日本医科大学病院
順天堂大学附属順天堂医院
昭和大学病院
東邦大学医療センター大橋病院
東邦大学 大森病院
東京女子医科大学東医療センター
日本大学医学部附属板橋病院
慈恵医大葛飾医療センター
東京慈恵会医科大学附属病院第3病院
小平記念東京日立病院
東芝病院
三井記念病院
母子愛育会総合母子保健センター愛育病院
（社福）聖母会 聖母病院
浅草寺病院
久我山病院
東京医療生協組合 中野総合病院
立正佼成会 附属佼成病院
東京衛生病院
（社福）勝楽堂病院
（社福）仁生社 江戸川病院
（社福）東京都同胞援護会昭島病院
（社福）鶴風会東京小児療育病院
（医社）時正会 佐々総合病院
医療法人社団日心会総合病院一心病院
まつしま産婦人科小児科病院
財団法人東京都保健医療公社多摩南部地域病院
独立行政法人国立病院機構災害医療センター
中林病院
医療法人社団久保田産婦人科病院
東京臨海病院
東海大学医学部付属八王子病院
東京北社会保険病院
公益財団法人 日本心臓血圧研究振興会附属
榊原記念病院
東京都立小児総合医療センター
（医財）健康文化会 小豆沢病院
緑風荘病院
板橋区医師会病院
（医社）誠志会 誠志会病院
日本医科大学 多摩永山病院
博慈会記念総合病院
秋津療育園
（社福）聖ヨハネ会桜町病院
昭和大学付属豊洲病院
（医社）板橋中央総合病院
（医社）水野クリニック
東京医科大学八王子医療センター
東京都立神経病院
国立精神神経医療研究センター病院
医療法人社団健生会立川相互病院
医療法人伯鳳会白鬚橋病院
東京労災病院
王子生協病院
練馬光が丘病院
苑田第二病院

14. 神奈川県

独立行政法人国立病院機構横浜医療センター
横須賀市立うわまち病院
独立行政法人国立病院機構相模原病院

独立行政法人国立病院機構神奈川病院
厚木市立病院
神奈川県立足柄上病院
横浜市立大学附属市民総合医療センター小児
総合医療センター
横浜市立市民病院
川崎市立川崎病院
平塚市民病院
茅ヶ崎市立病院
小田原市立病院
三浦市立病院
横浜市立みなと赤十字病院
横浜船員保険病院
住友重機械健保組合 浦賀病院
横須賀共済病院
国公共済連総合病院平塚共済病院
（財）神奈川県警友会けいゆう病院
大口東総合病院
（医療）柏堤会 戸塚共立おとキッズクリニック
総合川崎臨港病院
（医療）愛仁会 太田総合病院
（医社）亮正会総合高津中央病院
日本医科大学 武蔵小杉病院
日本鋼管病院
国際親善総合病院
総合病院 聖ヨゼフ病院
（社福）湘南福祉協会総合病院湘南病院
仁厚会病院
鈴木病院
医療法人産育会堀病院
湘南鎌倉総合病院
独立行政法人労働者健康福祉機構横浜労災病院
横浜市立大学医学部附属病院
自衛隊横須賀病院
昭和大学横浜市北部病院
重症心身障害児（者）施設横浜療育医療センター
聖隷横浜病院
関東労災病院
総合病院秦野赤十字病院
伊勢原協同病院
国公共済連 虎の門病院分院
（社団）日本厚生団長津田厚生総合病院
総合病院横浜通信病院
神奈川県立こども医療センター
藤沢市民病院
（財）横浜勤労者福祉協会汐田総合病院
昭和大学 藤が丘病院
聖マリアンナ医科大学病院
東海大学病院
北里大学病院
帝京大学 溝口病院
川崎医療生協 川崎協同病院
相模台病院
済生会 横浜市南部病院
神奈川県立汐見台病院
（医社）青葉会 牧野記念病院
横須賀市立市民病院
（医療）徳洲会 大和徳洲会病院
桜ヶ丘中央病院 小児科
湘南藤沢徳洲会病院
（医社）愛友会 金沢文庫病院
東海大学医学部附属大磯病院
（医社）JMA 海老名総合病院
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
医療法人社団緑成会横浜総合病院
医療生協かながわ生活協同組合戸塚病院
医療法人社団柏綾会綾瀬厚生病院

15. 新潟県

新潟大学医学部附属病院
新潟県立ガンセンター新潟病院
新潟県立新発田病院
新潟県立吉田病院

新潟県立小出病院
新潟県立六日町病院
新潟県立十日町病院
新潟県立中央病院
町立津南病院
総合病院長岡赤十字病院
済生会 三条病院
豊栄病院
長岡中央総合病院
魚沼病院
上越総合病院
けいなん病院
糸川総合病院
佐渡総合病院
小千谷総合病院
（医療）立川総合病院
済生会新潟第二病院
共生会中条中央病院
新潟市民病院
聖園病院
木戸病院
南部郷総合病院
佐渡市立両津病院
独立行政法人国立病院機構さいがた病院
新潟県はまぐみ小児療育センター
新津医療センター病院
新潟県立坂町病院
独立行政法人国立病院機構西新潟中央病院
下越病院
白根健生病院
厚生連村上総合病院

16. 富山県

富山県立中央病院
富山市立富山市民病院
黒部市民病院
高岡市民病院
かみいち総合病院
射水市民病院
富山県済生会 富山病院
厚生連高岡病院
厚生連滑川病院
社会保険 高岡病院
三田会高岡みなみ病院
公立南砺中央病院
南砺市民病院
氷見市民病院
富山大学附属病院
あさひ総合病院
富山県高志リハビリテーション病院

17. 石川県

金沢大学附属病院
石川県立中央病院
金沢市立病院
国保小松市民病院
公立能登総合病院
加賀市民病院
市立輪島病院
金沢赤十字病院
公立松任石川中央病院
金沢社会保険病院
金沢聖霊総合病院
恵寿総合病院
荒木病院
城北病院
金沢医科大学病院
金沢こども医療センター
独立行政法人国立病院機構石川病院
公立穴水総合病院
公立宇出津総合病院
医療法人社団和楽仁辰口芳珠記念病院

18. 福井県

独立行政法人 国立病院機構 福井病院
公立丹南病院
福井県立病院
坂井市立三国病院
市立敦賀病院
公立小浜病院
福井赤十字病院
福井県済生会病院
福井社会保険病院
岩井病院
独立行政法人国立病院機構あわら病院
福井県こども療育センター
大滝病院
レイクヒルズ美方病院
新田塚医療福祉センター福井クリニック小児科
福井心臓血管センター福井循環器病院
(医療) 福井愛育病院
中村病院
福井大学医学部附属病院

19. 山梨県

山梨県立中央病院
北杜市立甲陽病院
塩山市民病院
都留市立病院
石和共立病院
山梨赤十字病院
甲府共立病院
山梨厚生病院
上野原市立病院
山梨県立あけぼの医療福祉センター
大月市立中央病院
山梨大学医学部附属病院

20. 長野県

独立行政法人国立病院機構長野病院
独立行政法人国立病院機構東長野病院
長野県立阿南病院
長野県立木曽病院
長野県立須坂病院
諏訪中央病院
市立岡谷病院
伊那中央病院
市立大町総合病院
諏訪赤十字病院
下伊那赤十字病院
豊科赤十字病院
長野赤十字病院
飯山赤十字病院
J A長野厚生連 佐久総合病院
J A長野厚生連 北信総合病院
長野厚生農協連 新町病院
(医療) 慈泉会 相澤病院
県立こども病院
長野市民病院
中信勤労者医療協会塩尻協立病院
元山会中村病院
軽井沢町国民健康保険軽井沢病院
敬仁会桔梗ヶ原病院
佐久市立国保浅間総合病院
国立病院機構まつもと医療センター中信松本病院
昭和伊南総合病院
町立辰野病院
飯田市立病院
城西病院
国保依田窪病院
信濃医療福祉センター
長野県厚生農業組合連合会富士見高原病院
長野県厚生農業組合連合会篠ノ井総合病院
医療法人新生病院
御代田中央記念病院
健和会病院
松本市立病院

松本協立病院

21. 岐阜県

国立病院機構長良医療センター
岐阜県総合医療センター
岐阜県立多治見病院
岐阜市民病院
羽島市民病院
大垣市民病院
美濃市立美濃病院
多治見市民病院
土岐市立総合病院
総合病院中津川市民病院
下呂市立金山病院
高山赤十字病院
岐阜県厚生農業協同組合連合会岐北厚生病院
岐阜県厚生農協連 西美濃厚生病院
岐阜県厚生農協連 揖斐厚生病院
J A岐阜厚生連 東濃厚生病院
岐阜社会保険病院
公立学校共済組合 東海中央病院
みどり病院
海津市医師会病院
東山会長良川クリニック
岐阜大学医学部附属病院
岐阜県立下呂温泉病院
(医社) 誠広会 平野総合病院
松波総合病院
国保坂下病院
岐阜赤十字病院
医療法人社団友愛会岩砂病院・岩砂マタニティ
河村病院
岐阜県厚生連久美愛病院

22. 静岡県

国立病院機構静岡医療センター
独立行政法人国立病院機構天竜病院
静岡県立総合病院
静岡市立静岡病院
富士市立中央病院
富士宮市立病院
静岡市立清水病院
藤枝市立総合病院
掛川市立総合病院
磐田市立総合病院
共立湖西総合病院
静岡赤十字病院
浜松赤十字病院
静岡済生会総合病院
総合病院 清水厚生病院
JA 静岡厚生連 遠州病院
浜松医療センター
順天堂大学医学部附属静岡病院
聖隷三方原病院
熱海所記念病院
国際医療福祉大学附属熱海病院
下田メディカルセンター
静岡県立こども病院
浜松医科大学附属病院
独立行政法人国立病院機構静岡てんかん・神
経医療センター
浜松労災病院
芙蓉協会 聖隷沼津病院
市立御前崎総合病院

23. 愛知県

国立病院機構名古屋医療センター
国立病院機構豊橋医療センター
名古屋大学病院
名古屋通信病院
名古屋市立西部医療センター城北病院
名古屋市立大学病院
豊橋市民病院
岡崎市民病院

一宮市立市民病院
公立陶生病院
半田市立半田病院
春日井市民病院
小牧市民病院
豊川市民病院
津島市民病院
あま市民病院
西尾市民病院
蒲郡市民病院
常滑市民病院
新城市市民病院
名古屋第二赤十字病院
愛知県厚生連 海南病院
豊田厚生病院
愛知県厚生農協連 安城更生病院
愛知県厚生連 江南厚生病院
愛知県厚生農協連 渥美病院
社保中京病院
名鉄病院
名古屋済済会病院
上飯田第一病院
刈谷総合病院
東海市民病院
三菱名古屋病院
大同病院
トヨタ記念病院
愛知県立心身障害児療育センター第二青い鳥学園
清慈会 鈴木病院
尾張健友会 千秋病院
秋田病院
碧南市民病院
豊田地域医療センター
豊成会たけうちこどもクリニック
岩田病院
三好町民病院
碧友会堀尾安城病院
あいち小児保健医療総合センター
尾西記念病院
中部労災病院
N T T 西日本東海病院
南生協病院
藤田保健衛生大学病院
愛知医科大学病院
愛知県心身障害者コロニー中央病院
(医療) 赫和会 杉石病院
(医療) 志聖会 犬山中央病院
愛知県厚生農協連 尾西病院
(医療) 済衆館済衆館病院
愛知県厚生農協連 知多厚生病院
旭労災病院
医療法人財団新和会八千代病院
小嶋病院
(医療) 来光会 尾洲病院
医療法人青山病院
知多市民病院

24. 三重県

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院
国立病院機構三重中央医療センター
三重県立総合医療センター
三重大学医学部附属病院
桑名西医療センター
市立四日市病院
市立伊勢総合病院
伊賀市立上野総合市民病院
紀南病院
伊勢赤十字病院
四日市社会保険病院
桑名東医療センター
岡波総合病院
菰野厚生病院
名張市立病院
三重県厚生連いなべ総合病院

済生会明和病院
国立病院機構三重病院
津生協病院
医療法人ヨナハクリニック

25. 滋賀県

大津市民病院 小児循環器科
近江八幡市立総合医療センター
彦根市立病院
市立長浜病院
長浜市立湖北病院
公立高島総合病院
長浜赤十字病院
済生会滋賀県病院
社会保険滋賀病院
(財)豊郷病院
重症心身障害児施設びわこ学園医療福祉センター草津
誠光会草津総合病院
東近江市立能登川病院
大津赤十字志賀病院
昂会湖東記念病院
近江草津徳洲会病院
重症心身障害児施設びわこ学園医療福祉センター野津
滋賀医科大学病院
滋賀県立小児保健医療センター
野洲病院
独立行政法人国立病院機構紫香楽病院
日野記念病院

26. 京都府

京都医療センター
市立福知山市民病院
独立行政法人国立病院機構舞鶴医療センター
京都大学医学部附属病院
京都市立病院
公立南丹病院
京都第二赤十字病院
京都第一赤十字病院
済生会 京都府病院
社会保険京都病院
舞鶴共済病院
総合病院 日本パプテスト病院
(社)愛生会 山科病院
堀川病院
総合病院 京都南病院
(社福)宇治病院
綾部市立病院
府立舞鶴子ども療育センター
京丹後市立久美浜病院
石鎚会田辺中央病院
亀岡市立病院
洛西ニュータウン病院
三菱京都病院
独立行政法人国立病院機構宇多野病院
京都通信病院
宇治武田病院
京都社会事業財団 京都桂病院
美杉会男山病院
(社福)聖ヨゼフ会聖ヨゼフ整肢園
(医療)医仁会 武田総合病院
宇治徳洲会病院
(医療)医誠会 京都ルネス病院
武田病院
京丹後市立弥栄病院
医療法人頌徳会比叡病院
社団法人京都保健会京都民医連中央病院
洛和会 音羽病院
京都市桃陽病院
医療法人和松会六地藏総合病院

27. 大阪府

独立行政法人国立病院機構大阪医療センター

独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター
大阪大学医学部附属病院
大阪市立十三市民病院
市立池田病院
市立豊中病院
市立吹田市民病院
市立枚方市民病院
東大阪市立総合病院
八尾市立病院
泉大津市立病院
市立岸和田市民病院
市立貝塚病院
市立泉佐野病院
大阪赤十字病院
済生会 中津病院
大阪府済生会 泉尾病院
済生会野江病院
大阪府済生会 吹田病院
大阪府済生会 茨木病院
大阪厚生年金病院
大阪船員保険病院
東豊中渡辺病院
松下記念病院
住友病院
大阪掖済会病院
大阪府警察協会大阪警察病院
石井記念愛染園 愛染橋病院
(財)西淀病院
浅香山病院
社会医療法人きっこう会 多根総合病院
彰療会 大正病院
同仁会 耳原総合病院
宝生会 PL病院
生長会 府中病院
大阪医科大学病院
関西医科大学香里病院
大阪暁明館病院
淀川キリスト教病院
大阪府済生会千里病院
真美会 中野子ども病院
寺西報恩会 長吉総合病院
聖和病院
医療法人第一東和会病院
医療法人枚岡病院
若弘会若草第一病院
錦秀会阪和住吉総合病院
大阪市立総合医療センター小児救急科
三友会久松病院
医療法人新明会神原病院
関西医科大学附属枚方病院
関西医科大学附属滝井病院
市立柏原病院
協和会 総合加納病院
仙養会 北摂総合病院
近畿大学医学部堺病院
大阪労災病院
国立循環器病研究センター
大阪北通信病院
和泉市立病院
高槻赤十字病院
星ヶ丘厚生年金病院
愛仁会 千船病院
清恵会病院
岸和田徳洲会病院
愛仁会 高槻病院
近畿大学医学部附属病院
北大阪医療生活協同組合照葉の里箕面病院
富田林病院
信愛会 交野病院
大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター
医誠会 城東中央病院
大道会 森之宮病院
箕面市立病院
信愛会 新生病院

祐生会 みどりヶ丘病院
協仁会 小松病院
生協こども診療所
徳洲会 八尾徳洲会総合病院
阪南市民病院
同友会 共和病院
貴生病院
愛賛会浜田病院
生長会 ベルランド総合病院
市立藤井寺市民病院
孟仁会 摂南総合病院

28. 兵庫県

明石医療センター
神戸大学病院
関西労災病院
兵庫県立塚口病院
兵庫県立淡路病院
兵庫県立西宮病院
明石市立市民病院
市立三木市民病院
公立豊岡病院
西宮市立中央病院
加古川西市民病院
市立川西病院
市立伊丹病院
公立八鹿病院
高砂市民病院
市立小野市民病院
赤穂市民病院
市立西脇病院
市立芦屋病院
三田市民病院
姫路赤十字病院
済生会 兵庫県病院
社保神戸中央病院
公学共済 近畿中央病院
甲南病院
(医療)明和病院
新日鐵広畑病院
六甲アイランド甲南病院
西神戸医療センター
適養リハビリテーション病院
公立宍粟総合病院
樹徳会上ヶ原病院
兵庫医科大学ささやま医療センター
協和会協和マリナホスピタル
神戸市立医療センター西市民病院
公立香住総合病院
神戸赤十字病院
西宮すなご医療福祉センター
西宮回生病院
神戸通信病院
自衛隊 阪神病院
兵庫県立こども病院
加東市民病院
兵庫医科大学病院
(医療)尚和会 宝塚第一病院
総合病院 姫路聖マリア病院
尼崎医療生協病院
(医療)協和会協立病院
(医療晋真会)ベリタス病院
加古川東市民病院
独立行政法人国立病院機構兵庫青野原病院
公立神崎総合病院
兵庫県立柏原病院
東神戸病院
独立行政法人国立病院機構神戸医療センター
神戸徳洲会病院
神戸アドベンチスト病院
医療法人社団まほし会真星病院
医療法人 パルモア病院
汐咲会 井野病院
医療法人伯鳳会 赤穂中央病院

29. 奈良県

市立奈良病院
奈良県立医科大学病院
吉野町国保吉野病院
町立大淀病院
済生会 奈良病院
奈良社会保険病院
天理よろづ相談所病院
土庫病院
奈良県総合リハビリテーションセンター
国保中央病院
近畿大学医学部奈良病院
独立行政法人国立病院機構奈良医療センター
奈良県立奈良病院
奈良県立五條病院
東生駒病院
済生会 中和病院
清心会 桜井病院
友誼会病院

30. 和歌山県

和歌山県立医科大学病院
海南市民病院
公立那賀病院
橋本市市民病院
有田市立病院
国保日高総合病院
社会保険紀南病院
新宮市立医療センター
日本赤十字社和歌山医療センター
労働福祉事業団 和歌山労災病院
和歌山生協病院
独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センター

31. 鳥取県

独立行政法人国立病院機構米子医療センター
鳥取大学病院
鳥取県立中央病院
岩美町国保岩美病院
国保智頭病院
鳥取県済生会 境港総合病院
博愛病院
鳥取生協病院
南部町国民健康保険西伯病院
独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター

32. 島根県

大田市立病院
独立行政法人国立病院機構浜田医療センター
島根県立中央病院
松江市民病院
出雲市立総合医療センター
町立奥出雲病院
雲南市立病院
隠岐広域連合立隠岐病院
松江赤十字病院
益田赤十字病院
済生会 江津総合病院
東部島根医療福祉センター
安来市立病院
島根大学医学部附属病院
西部島根心身障害医療福祉センター
松江記念病院

33. 岡山県

総合病院 岡山市立市民病院
倉敷市立児島市民病院
笠岡市立市民病院
市立井原市民病院
岡山赤十字病院
川崎医学振興財団川崎病院
(財)倉敷中央病院
(財)弘仁会 玉島病院
津山中央病院

(医)水和我 水島中央病院
新見中央病院
総合病院 落合病院
総合病院 水島協同病院
医療法人三水会 田尻病院
総合病院玉野市立玉野市民病院
旭川荘療育・医療センター
美作中央病院
川崎医科大学附属病院
独立行政法人国立病院機構南岡山医療センター
重井医学研究所附属病院
(財)仁厚医学研究所 児島中央病院
倉敷成人病センター
倉敷スイードホスピタル
笠岡中央病院
笠岡第一病院
岡山労災病院
倉敷北病院

34. 広島県

呉医療センター
独立行政法人国立病院機構福山医療センター
独立行政法人国立病院機構東広島医療センター
広島大学病院
広島鉄道病院
広島通信病院
県立広島病院
県立安芸津病院
広島市立広島市民病院
市立三次中央病院
広島赤十字・原爆病院
総合病院 三原赤十字病院
総合病院 庄原赤十字病院
広島厚生連農協 尾道総合病院
厚生連 広島総合病院
広島県厚生農協連 府中総合病院
中国電力株式会社 中電病院
マツダ株式会社 マツダ病院
福島生協病院
独立行政法人国立病院機構広島西医療センター
尾道市立市民病院
日本鋼管福山病院
広島市立舟入病院
福山市市民病院
広島医療生協広島共立病院
広島市立安佐市民病院
中国労災病院
県立障害者リハビリテーションセンター医療センター
公立みつぎ総合病院
あかね会 土谷総合病院
正岡病院
うすい会 高陽ニュータウン病院
里仁会 興生総合病院

35. 山口県

国立病院機構関門医療センター
山口大学病院
山口県立総合医療センター
下関市立市民病院
総合病院 山口赤十字病院
済生会 下関総合病院
周東総合病院
小郡第一総合病院
長門総合病院
社保徳山中央病院
地域医療支援病院オープンシステム徳山医師会病院
神徳会 三田尻病院
山口労災病院
鼓ヶ浦こども医療福祉センター
美祢市立病院
周南記念病院
至誠会梅田病院

山口県済生会下関市立豊浦病院
独立行政法人国立病院機構山陽病院
松涛会 安岡病院
済生会 山口総合病院
光市立大和総合病院
宇部協立病院

36. 徳島県

独立行政法人国立病院機構徳島病院
徳島大学病院
徳島県立中央病院
徳島市民病院
町立半田病院
徳島赤十字病院
阿南共栄病院
厚生連 麻植協同病院
健保鳴門病院
独立行政法人国立病院機構東徳島病院
(医療)原田病院
阿波病院
たまき青空病院

37. 香川県

香川県立中央病院
さぬき市民病院
総合病院 坂出市立病院
三豊総合病院
高松赤十字病院
屋島総合病院
社保栗林病院
麻田総合病院
内海病院
高松市民病院
独立行政法人国立病院機構香川小児病院
香川県済生会病院
香川県立白鳥病院
坂出聖マルチン病院
香川大学医学部附属病院
高松平和病院
大樹会総合病院 回生病院
香川井下病院

38. 愛媛県

独立行政法人国立病院機構愛媛病院
愛媛県立中央病院
愛媛県立今治病院
市立八幡浜総合病院
西予市立野村病院
市立宇和島病院
宇和島市立津島病院
西条中央病院
住友別子病院
新居浜協立病院
旭川荘南愛媛病院
公立学校共済組合四国中央病院
愛媛労災病院
伊予病院
(財法)積善会附属十全総合病院
更生会 村上記念病院
長谷川病院
西条市立周桑病院
済生会今治病院
美須賀病院

39. 高知県

高知医療センター
土佐市立土佐市民病院
高知赤十字病院
J A高知病院
聖真会 渭南病院
公世会野市中央病院
幡多けんみん病院
(医療)仁生会 三愛病院
高知大学医学部附属病院

高知県立あき総合病院

40. 福岡県

独立行政法人国立病院機構小倉医療センター
国立病院九州医療センター
独立行政法人国立病院機構福岡病院
独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター
久留米大学医療センター小児科
九州大学病院
北九州市立門司病院
北九州市立医療センター
産業医大若松病院
北九州市立八幡病院
大牟田市立総合病院
筑後市立病院
公立八女総合病院
福岡赤十字病院
嘉麻赤十字病院
福岡県済生会八幡病院
福岡県済生会 福岡総合病院
九州厚生年金病院
浜の町病院
福岡鳥飼病院
久留米大学病院
社保大牟田天領病院
飯塚病院
宗像医師会病院
宗像水光会総合病院
姫野病院
飯塚市立病院
九州労災病院
国立病院九州がんセンター
自衛隊 福岡病院
聖ヨゼフ園
慈恵曽根病院
正信会 水戸病院
ゆうかり医療療育センター
産業医科大学病院
福岡大学病院
総合病院千鳥橋病院
北九州総合病院
北九州市立総合療育センター
福岡市立子ども病院・感染症センター感染症科
米の山病院
太刀洗病院
高邦会 高木病院
健和会 大手町病院
牧山中央病院
川崎町立病院
朝倉医師会病院
西野病院
牟田病院
健和会京町病院
福岡県立柏屋新光園
福岡大学筑紫病院
相生会 宮田病院

41. 佐賀県

独立行政法人国立病院機構佐賀病院
独立行政法人国立病院機構嬉野医療センター
伊万里有田共立病院
西有田共立病院
佐賀社会保険病院
佐賀整肢学園子ども発達医療センター
古賀小児科内科病院
医療法人社団 敬愛会 佐賀記念病院
独立行政法人国立病院機構東佐賀病院
佐賀大学医学部附属病院
静便堂 白石共立病院
順天堂病院
至慈会 高島病院

42. 長崎県

国立病院長崎医療センター

長崎大学病院
長崎市立市民病院
佐世保市立総合病院
健保諫早総合病院
佐世保共済病院
長崎記念病院
(医療) 白十字会佐世保中央病院
口之津病院
愛野記念病院
医療法人医理会 柿添病院
独立行政法人国立病院機構長崎病院
長崎県島原病院
済生会長崎病院
諫早療育センター
対馬いづはら病院
田上病院
平成会 女の都病院

43. 熊本県

独立行政法人国立病院機構熊本再春荘病院
熊本大学医学部附属病院
熊本市市民病院(小児科)
和水町立病院
荒尾市市民病院
阿蘇中央病院
小国公立病院
球磨郡公立多良木病院
上天草総合病院
熊本赤十字病院
熊本中央病院
球磨病院
熊本労災病院
天草慈恵病院
くわみず病院
熊本循環器科病院
天草地域医療センター
聖和会有明成仁病院
社会医療法人黎明会宇城総合病院
牛深市市民病院
熊本地域医療センター
公立玉名中央病院
山鹿市立病院
坂梨会 阿蘇温泉病院
丸田病院
熊本託麻台病院
菊池中央病院

44. 大分県

国立病院機構別府医療センター
独立行政法人国立病院機構西別府病院
中津市立中津市民病院
大分県立病院
国東市市民病院
杵築市立山香病院
大分赤十字病院
大分県厚生連鶴見病院
津久見市医師会立津久見中央病院
大分子ども病院
大分県済生会日田病院
別府発達医療センター
大川産婦人科病院
公立おがた総合病院
大分市医師会立アルメイダ病院
大分大学医学部附属病院
健保南海病院
西田病院
医療法人財団天心堂へつぎ病院
大分岡病院
竹田医師会病院

45. 宮崎県

県立宮崎病院
県立延岡病院
県立日南病院

小林市立病院
高千穂町国保病院
(社法) 八日会 藤元早鈴病院
都城市郡医師会病院
育生会井上病院
宮崎生協病院
宮崎市小児診療所
独立行政法人国立病院機構宮崎病院
独立行政法人国立病院機構宮崎東病院
宮崎県済生会日向病院

46. 鹿児島県

国立病院鹿児島医療センター
独立行政法人国立病院機構指宿病院
鹿児島大学病院
県民健康プラザ鹿児島医療センター
鹿児島市立病院
出水総合医療センター
八反丸病院
オレンジ学園
鹿児島子ども病院
国分生協病院
沖永良部徳州会病院
医療法人 義順顕彰会田上病院
喜界徳州会病院
徳洲会屋久島徳州会病院
今村病院
県立大島病院
独立行政法人国立病院機構南九州病院
総合病院鹿児島生協病院
済生会 川内病院
県立北薩病院
徳洲会 鹿児島徳州会病院
財団法人今給黎総合病院

47. 沖縄県

北部病院
医療法人球陽会海邦病院
医療法人 友愛会 南部病院
県立北部病院
沖縄県立中部病院
総合病院沖縄赤十字病院
琉球大学病院
県立八重山病院
沖縄協同病院
敬愛会 中頭病院
那覇市立病院
沖縄整肢療護園
友愛会 豊見城中央病院
もとぶ野毛病院
与勝病院
中部徳州会病院
かりゆし会ハートライフ病院
潮平病院
沖縄療育園
医療法人信和会沖縄第一病院

川崎病調査票(第22回全国調査)

お願い

- 平成23年1月1日～平成24年12月31日の2年間に発症し貴施設を受診した患者全員について記入して下さい。
- 症例がない場合も本調査票のQ1「施設に関する質問」をご記入の上、ご返送下さい。
- 他施設より紹介された患者、他施設へ転院した患者も含めます。

主治医(代表者)ご芳名
メールアドレス
平成24年6月
川崎病全国疫学調査事務局作成

診断の確実性の定義

- 確実A:6つの主要症状のうち5つ以上の症状あり
- 確実B:4つの症状しかないが冠動脈瘤(拡大)を伴う
- 不小型:下記1)参照

転院の場合 記入しない	患者氏名 イニシアル 姓・名の順 に記入する	発病時患者住所 番地は省略する	性	出生年月日	初診年月日 初診年は1か2 に○をつける	初診時 病日 今回の川崎 病の症状が 最初に出現 した日を第1病 日とする	診断の 確実性	治療(前医での投与分についても含む)			検査所見 (初診時)	今回の 発症	同胞例	両親の 川崎病 既往歴	心障害	
								免疫グロブリン (IG)投与 不応例は下記2)参照	初回IG 投与方法 IG投与なしの場合 は記入不要	初回IG 投与後の 追加治療法 あてはまるもの すべてに○を つける					初診時の異常 (1か月以内)	後遺症 (発症後1か月)
	姓 名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	平成 年 月 日	1 平成23年 2 平成24年 月 日	初診時 病日	1 確実A 2 確実B 3 不小型 ¹⁾ 主要症状の数 (/6)	初回IG投与 1 貴院 2 前医 開始 病日 1日 x 日	初回IG 追加IG 追加治療法 あてはまるもの すべてに○を つける	白血球数 / μ L 血小板数 \bar{w}/μ L アルブミン g/dL CRP mg/dL	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	
	姓 名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	平成 年 月 日	1 平成23年 2 平成24年 月 日	初診時 病日	1 確実A 2 確実B 3 不小型 ¹⁾ 主要症状の数 (/6)	初回IG投与 1 貴院 2 前医 開始 病日 1日 x 日	初回IG 追加IG 追加治療法 あてはまるもの すべてに○を つける	白血球数 / μ L 血小板数 \bar{w}/μ L アルブミン g/dL CRP mg/dL	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	
	姓 名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	平成 年 月 日	1 平成23年 2 平成24年 月 日	初診時 病日	1 確実A 2 確実B 3 不小型 ¹⁾ 主要症状の数 (/6)	初回IG投与 1 貴院 2 前医 開始 病日 1日 x 日	初回IG 追加IG 追加治療法 あてはまるもの すべてに○を つける	白血球数 / μ L 血小板数 \bar{w}/μ L アルブミン g/dL CRP mg/dL	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	
	姓 名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	平成 年 月 日	1 平成23年 2 平成24年 月 日	初診時 病日	1 確実A 2 確実B 3 不小型 ¹⁾ 主要症状の数 (/6)	初回IG投与 1 貴院 2 前医 開始 病日 1日 x 日	初回IG 追加IG 追加治療法 あてはまるもの すべてに○を つける	白血球数 / μ L 血小板数 \bar{w}/μ L アルブミン g/dL CRP mg/dL	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	
	姓 名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	平成 年 月 日	1 平成23年 2 平成24年 月 日	初診時 病日	1 確実A 2 確実B 3 不小型 ¹⁾ 主要症状の数 (/6)	初回IG投与 1 貴院 2 前医 開始 病日 1日 x 日	初回IG 追加IG 追加治療法 あてはまるもの すべてに○を つける	白血球数 / μ L 血小板数 \bar{w}/μ L アルブミン g/dL CRP mg/dL	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	
	姓 名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	平成 年 月 日	1 平成23年 2 平成24年 月 日	初診時 病日	1 確実A 2 確実B 3 不小型 ¹⁾ 主要症状の数 (/6)	初回IG投与 1 貴院 2 前医 開始 病日 1日 x 日	初回IG 追加IG 追加治療法 あてはまるもの すべてに○を つける	白血球数 / μ L 血小板数 \bar{w}/μ L アルブミン g/dL CRP mg/dL	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	
	姓 名	都道府県 市 郡 区町村	1 男 2 女	平成 年 月 日	1 平成23年 2 平成24年 月 日	初診時 病日	1 確実A 2 確実B 3 不小型 ¹⁾ 主要症状の数 (/6)	初回IG投与 1 貴院 2 前医 開始 病日 1日 x 日	初回IG 追加IG 追加治療法 あてはまるもの すべてに○を つける	白血球数 / μ L 血小板数 \bar{w}/μ L アルブミン g/dL CRP mg/dL	1 初発 2 再発	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 あり 3 不明	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤 4 拡大 5 狭窄 6 心筋梗塞 7 弁膜病変	

Q1.「施設に関する質問」(本調査票を2枚以上使用の場合は1枚目にご記入下さい)

- 貴院のベッド数はいくつですか。 病院全体 床 小児科一般病床 床
- 貴院の小児科医は何人ですか。 常勤小児科医 人 非常勤小児科医 人
そのうち循環器を専門とする小児科医 常勤小児科医 人 非常勤小児科医 人
- 貴院では急性期の心障害も心後遺症もない川崎病既往児をいつまで観察するかの原則を決めていますか。
1) 決めていない(主治医の判断にゆだねている)
2) 決めている a) 罹患後1年まで b) 罹患後5年まで c) 小学校入学まで d) 中学校入学まで e) 高校入学まで f) その他
- 川崎病診療費の支払い方法はどちらですか。
1. 出来高払い(全医療行為について) 2. 定額払いの導入(DPC適用)
一(2のみ)免疫グロブリン投与などの制限を受けたことがありますか。 1. はい 2. いいえ

Q2.「死亡例に関する質問」(今回の報告のみでなく、前回来での調査で生存として報告され、その後に死亡した例も含めてご記入下さい)

患者氏名(イニシアル)	性	出生年月日	川崎病初診年月日	死亡年月日	剖検	死亡原因	剖検の施設名など
姓 名	1. 男 2. 女	昭 平 年 月 日	昭 平 年 月 日	平成 年 月 日	1. なし 2. あり		
姓 名	1. 男 2. 女	昭 平 年 月 日	昭 平 年 月 日	平成 年 月 日	1. なし 2. あり		

- 「川崎病不小型」診断の手引きの基準は満たさないが、他の疾患が否定され川崎病と考えられるもの。
- 「免疫グロブリン不応例」通常総量2g/kgのIVIg投与終了後24時間以上持続する発熱、または24時間以内に再発熱が認められた場合とする。判定には発熱以外の急性期症状や検査結果の改善度も勘案する。

一住所、電話番号の誤りは朱書にてご訂正下さい。
〒329-0498 返送先
栃木県下野市薬師寺3311-1
自治医科大学公衆衛生学教室気付
川崎病全国疫学調査事務局 宛
電話：0285-44-6192、0285-58-7338
ファクス：0285-44-7217
e-mail：epikd@jichi.ac.jp

*死亡例はQ2にご記入下さい